

令和 2 年度

香川大学教育学部と香川県教育委員会との  
連携に関する実績報告書

香川大学教育学部／香川県教育委員会

## はじめに

「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する覚書」が締結されたのは、平成 14 年のことです。依頼、19 年にわたり活発な連携協力を進めてきています。その間、大学は法人化による中期目標・中期計画、大学改革加速期間、ミッションの再定義といった流れの中で、教員養成の一本化（人間発達環境課程の廃止、教育学研究科の教職大学院化など）、「国立教員養成系大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」による教員養成の内部改革と教員研修機能の強化、さらに附属学校園改革を推進してきました。さらに最近では、令和 3 年 3 月に『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」という諮問が出されており、その答申は教育学部の在り方に大きな影響を与えるものと思われます。こうした一連の改革は地元の教育委員会との連携なしには推進できるものではありません。今後も一層の連携強化が求められているところです。

「令和の日本型学校教育」というビジョンは、学校教育のこれまでの常識を様々な形で塗り替える可能性のあるものです。それゆえに実現に向けての取り組みは大きな困難を伴うように思われます。大元は、Society5.0 時代に対応した新しい教育の実現にあり、GIGA スクール構想に対応した ICT 活用指導力、個別最適な学びと協働的な学び、履修主義と修得主義などの二項対立の相剋、などなど学校現場においても、教員養成の現場においても、難題が待ち受けています。

これまでも香川大学教育学部は、香川県教育委員会等との連携の中で、様々な困難に対処してきました。これは、本教育学部の先輩たちが作り上げてきた仕組みの成果であります。今、我々は、本学部の今後の発展のために、これまで以上に地域に求められる教育学部となることを目指していかなければなりません。その礎として、今後とも連携事業の推進を担っていきたいと思います。

令和 3 年 3 月

香川大学教育学部長

野 崎 武 司

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

本県では、令和2年度を第3期「香川県教育基本計画」の総まとめの時期として、「夢に向かってチャレンジする人づくり」の基本理念のもと、子どもたちとともに、教員もチャレンジし、資質・能力を高めていくことができるよう、様々な教育施策を積極的に展開して参りました。

このような中、平成14年度からスタートした香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組は19年目を迎え、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題に対応するため、多方面で連携・協力を進めているところです。

これまで、香川大学の先生方には、県教育委員会各課主催の現職教員研修や各種事業、教員免許状更新講習等における講師・助言者として専門的な視点からのご指導・ご助言をいただいたり、学力向上施策を中心としたモデル校事業や道徳の教科化に向けた取組において、研究指定校へ直接足を運んでご指導をいただいたりと、様々な場面でご支援、ご協力をいただきました。

令和2年度は、新たに香川県教育施策推進協議会、小・中学校における新しい指導体制の在り方検討委員会、特別支援教育スキルアップ事業実践推進校研究事業、読み聞かせアドバイザースキルアップ研修会において、連携をお願いし、専門的な立場から貴重なご指導・ご助言をいただきました。

また、坂出高校「教育創造コース」においては、無事2期生を送り出すことができました。今年度、新型コロナウイルス感染症対策のため制約が多々あったにも関わらず、教育学部の教授等による出前講座やグループ研究活動の指導をはじめ、附属坂出幼稚園、小・中学校、特別支援学校における実習の受け入れなど、坂出高校教育創造コースの教育にご理解をいただき、多大なるご支援を賜りました。生徒は、そのような貴重な経験を通し、教職への夢を一層膨らませ、理想の教師像を形づくり、未来の香川の教育を担う人材へと育っていくことと存じます。

香川県教育委員会では、平成30年度に「香川県教員等人材育成方針」を策定し、目指すべき香川の教員像として「教育に対する情熱をもち、素養と資質を備えた教員」「専門的な知識や技能・指導力を有し、社会変化や教育課題に適切に対応できる教員」「連携・協働しながら学校運営に積極的に参画する教員」を挙げています。教員等が教職経験に応じた知識・技能を習得し、実践的指導力を高められるよう、香川大学教育学部との連携協力を一層密にしながら、学び続ける教員の育成に向けて努力を重ねてまいりたいと考えております。

令和3年3月

香川県教育委員会教育長

工 代 祐 司

# 目 次

## はじめに

大学改革の動向と今後の教員養成

香川大学教育学部長 野 崎 武 司

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

香川県教育委員会教育長 工 代 祐 司

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取り組み

### 【概要編】

令和元年度の香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力

に関する取り組み一覧 …………… 2

### 【資料編】

[資料 1] 令和 2 年度公立学校インターンシップ実施要領…………… 9

[資料 2] 公立学校教員等の活用……………10

[資料 3] 香川大学教育学部の専任教員として……………13

[資料 4] 大学教員の公立学校現場での研修制度……………17

[資料 5] 令和 2 年度香川県教育委員会免許法認定講習……………18  
(特別支援学校教諭)

[資料 6-1] 教員免許状更新講習……………19

[資料 7-1] 令和 2 年度管理職候補者研修会……………26

[資料 7-2] 教員研修連携プログラム……………27

[資料 8-1] 思考力、判断力、表現力等の育成モデル校事業……………29

[資料 8-2] アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業……………30

[資料 8-3]	幼児教育支援員派遣事業	31
[資料 8-4]	豊かでたくましい心をはぐくむ教育の推進	33
[資料 9]	キャリア教育充実事業（プロを講師とした授業）	34
[資料 10]	高大連携（高校生対象の授業公開等に係る連携）	35
[資料 11]	学生ボランティア派遣事業	36
[資料 12]	第 19 回「未来からの留学生」を終えて	37
[資料 13]	令和 2 年度特別支援教育コーディネーター協議会	38
[資料 14]	香川 CST 事業	39
[資料 15]	英語ラボ・道徳ラボの取組	40
[資料 16]	坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業	41

#### 【覚書・要項】

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する覚書	47
香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項	48

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力  
に関する取り組み

概 要 編

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組一覧

### I 協議会関係

項 目	令和2年度実績	令和3年度計画等	資 料
①連携協議会等の開催 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 連携協議会 (R3.2.2)</li> <li>○ 幹事会 開催なし</li> <li>○ 専門委員会 開催なし</li> </ul>	連携協議会開催 (R4.2 予定)  ・ 幹事会 (1 回程度)	
②報告書の作成 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和元年度実績報告書作成</li> </ul>	・ 令和2年度実績報告書 作成	

## II 連携関係

### 1 教員養成に関するもの

項 目	令和2年度実績	令和3年度計画等	資 料
①公立学校での教育実習 〔担当：教育学部〕	<p>正規</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・附特支 公立1校（参観）6月（1日間）</li> </ul> <p>特別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・附高小 公立小8校（実習）5・6月（10日間）</li> <li>・附坂小 公立小3校（実習）5月（10日間）</li> <li>・附高中 公立中6校（実習）5・6月（5日間）</li> <li>・附坂中 公立中1校（実習）6月（5日間）</li> </ul> <p>※「正規」は、教育実習期間中に行うもの。 「特別」は、希望により行うもの。 ※R2年度は上記の予定であったが、新型コロナウイルスの影響により「中止」。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	
②公立学校インターンシップ 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員採用内定者が公立学校で研修</li> <li>・ 対象者：49名（学部45名、院4名）</li> <li>・ 実施期間 令和3年2月～3月（5日程度）</li> </ul> <p>※R2年度は新型コロナウイルスの影響により「中止」。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	資料1
③教職大学院における公立学校等での実習 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高度教職実践専攻における実習連携協力校 31校の連携協力校（県立特別支援学校2校、中学校9校、小学校19校、幼稚園1園）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul> <p>34校の連携協力校（県立特別支援学校2校、中学校9校、小学校19校、幼稚園2園、高等学校2校）</p>	
④公立学校教員等の活用 （県教育センター） （義務教育課） （高校教育課） 〔担当：教育学部〕 〔担当：県教委〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現職教員等が附属教職支援開発センター客員教授として講義</li> <li>・ 退職校長（岡静子）、主任指導主事（荻田泰世、葛西秀樹）</li> <li>・ 年間2期、1人20～25時間程度の講義</li> <li>○ 現職教員等が教員養成実地指導講師として講義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	資料2
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現職教員等3名を大学教員（准教授）として採用（H15.4.1～）</li> <li>大熊裕樹、久米亜弥、豊島 修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	資料3
⑤大学教員の公立学校現場での研修制度（義務教育課） 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学教員が公立学校現場で研修</li> <li>・ 研修者（1名） 宮崎隼人 准教授 高松市立鶴尾小学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	資料4



## 2 教員研修に関するもの

項 目	令和2年度実績	令和3年度計画等	資 料
①大学院での現職教員の研修 (義務教育課) (高校教育課) [担当：県教委]	○ 内地留学の実施 (H19.8名、H20.7名、H21.8名、H22.7名、H23.6名、 H24.5名、H25.5名、H26.5名、H27.5名、H28.11 名、H29.10名、H30.10名、R1.10名、R2.6名) ・教職大学院学校力開発コース 2名 ・教職大学院授業力開発コース 1名 ・教職大学院特別支援 Co コース 3名 ※人数は1年次(小・中・高)のもの 県立学校からは、大学院特別支援コースに1名	・継続実施 (令和3年度は6名の 予定)	
②教員免許状取得のための 研修 (免許法認定講習等) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 免許状取得・上進のための研修 ・県主催免許法認定講習(8月～9月)への大学 教員の派遣等	・継続実施	資料5
(免許法認定公開講座) [担当：教育学部]	○実施なし	・継続実施	
③指導改善研修 (県教育センター) [担当：県教委]	○対象受講者がなかったため、未実施。	・未定	
④教職員研修 (県教育センター) [担当：県教委]	○ 初任者研修・職務研修の講師・助言者として 大学教員を派遣 ※コロナ禍により中止とした研修を含む。 ○令和3年度「小中教育指導研修会」の研修企画 の指導・助言 ○教職大学院連携研修講座として、5講座を 実施。 ※コロナ禍により研修は未実施。連携科目として 実施した授業に県教育センター指導主事が参加し、 遠隔研修の実証実験を実施。	・継続実施  ・研修講師を派遣  ・新規講座を1講座 増設	
⑤特別支援教室への派遣 (義務教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○内地留学の実施 (H25.2名、H26.2名、H27.2名、 H28.2名、H29.2名、H30.2名、 R1.2名、R2.1名)	・継続実施	

⑥教員免許状更新講習 [担当：教育学部]	○ 教員免許状更新講習として必修講習 6、選択必修講習 18, 選択講習 59 の計 83 講座を開設	・教員免許状更新講習として必修講習 7、選択必修講習 16, 選択講習 70 の計 93 講座を開設する予定	資料 6
⑦教員研修連携プログラム (管理職候補者研修会) (義務教育課) [担当：県教委]  [担当：教育学部]	○管理職候補者研修会年 10 回のうちの 2 回を香川大学教職大学院開講の「学校の危機管理研究 I」として実施 (大学教員が担当)  ○学校の危機管理研究 I (集中・1 単位) 8 月 4 日 10 名 (うち院生 10 名) 8 月 6 日 10 名 (うち院生 10 名) ※本年度は、コロナの影響で管理職候補者研修としての「学校の危機管理研究」は中止。  ○学校の危機管理研究 II (集中・1 単位) 9 月 12 日 22 名 (うち院生 10 名) 9 月 19 日 17 名 (うち院生 10 名)	・継続実施	資料 7

### 3 調査・研究に関するもの

項 目	令和 2 年度実績	令和 3 年度計画等	資 料
①公立学校等の教育活動支援 (義務教育課) [担当：県教委]	○ 校内研究活動等への指導・支援のための講師派遣 ・ 思考力等の育成モデル校事業 ・ 主体的に学習に取り組む態度の育成モデル校事業 ・ 教育の情報化推進モデル校事業 ・ 小学校外国語教育推進モデル校事業 ・ キャリア教育モデル校事業 ・ アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業 ・ 幼児教育支援員派遣事業 ・ 豊かでたくましい心をはぐくむ教育の推進	・継続実施 新学習指導要領に対応するため次のモデル校を検討中 ・ 個を活かす協働的な学びの推進 ・ 教育の情報化推進 ・ キャリア教育 ・ 小学校外国語教育	資料 8
②香川県学力等調査結果 分析検討会議 (県教育センター) (義務教育課) [担当：県教委]	○「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析に対する指導助言  ※令和 2 年度は、全国学力・学習状況調査の中止及び香川県学習状況調査の一部中止により、検討会議は未実施	・継続実施	
③実証研究委員会 (県教育センター) [担当：県教委]	○委託事業不採択のため、未実施。	・廃止	

#### 4 事業に関するもの

項 目	令和2年度実績	令和3年度計画等	資 料
①キャリア教育充実事業 (プロを講師とした授業) (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 大学教員を講師として派遣 高松桜井高(高松北高も計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として中止)	・継続実施	資料9
②高大連携 (高校教育課) 〔担当：県教委〕	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として中止	・継続実施	資料10
③学生ボランティアの派遣 (義務教育課) (生涯学習・文化財課) (人権・同和教育課) 〔担当：県教委〕	○ 学生ボランティア派遣事業(登録者59名) ・ 学習指導の補助、学校生活への適応補助など公立小・中学校や教育支援センター(適応指導教室)に63名を派遣(R2.12.1現在)	・継続実施	資料11
	○ 「放課後子供教室」支援ボランティア等の募集	・継続実施	
	○ 多様性社会に適応する豊かな心の育成事業(新) *コロナ禍のため実施できず	来年度以降は実施しない	
⑤未来からの留学生 〔担当：教育学部〕	○ 幼・小・中学生とその保護者を対象に開催 ・ 学校園訪問 ・ 大学公式ページからの動画配信等	・継続実施	資料12
⑥県立学校との連携 (高校教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 県立学校の学校評議員等として大学教員が協力	・継続実施	
⑦各種委員会等への協力状況 (県教委各課) (県教育センター) 〔担当：県教委〕	○ 各種事業委員会の委員等として相互協力 ※令和2年度は、コロナ禍等により一部委員会は未実施。	・継続実施	
⑧生涯学習の機会の提供 (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 「地域の生涯学習支援事業・キャンパス講座」として大学の授業を公開することとしていたが、感染症対策のため中止	・継続実施	

<p>⑨特別支援教育体制整備推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家チーム</li> <li>・ 巡回相談</li> <li>・ 特別支援教育コーディネーター協議会</li> <li>・ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会</li> </ul> <p>(特別支援教育課) 〔担当：県教委〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体制整備の推進に関する指導・助言</li> <li>○ 学校（園）を訪問し、発達障害を含む障害のある児童生徒への指導内容・方法、学校（園）の支援体制について指導助言</li> <li>○ 特別支援教育コーディネーター協議会での講義</li> <li>○ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会での講義(今年度中止)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> </ul>	<p>資料 13</p>
<p>⑩香川 CST 事業</p> <p>〔担当：教育学部〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本協議会に設置された専門委員会「香川 CST 事業推進委員会」が実施</li> <li>○ CST 養成プログラムの実施（継続 13 名）</li> <li>○ CST 養成プログラムの修了認定（0 名）</li> <li>○ CST 活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> </ul>	<p>資料 14</p>
<p>⑪令和 2 年度 独)教職員支援機構連携教職大学院を対象とする地域センター開発支援事業</p> <p>〔担当：教育学部〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四国地域教職アライアンス香川大学センター主催の本事業を本学教職大学院と香川県教育センターが連携のもと、道徳ラボと英語ラボを実施。道徳ラボは、四国アライアンス広域連携型プログラムの「SP3 社会の変化と子供の心 道徳教育の指導」に、英語ラボは「SP4 小学校英語」に位置付けながらオンライン発信も活用しながら実施してきた。両研修会を通じて、主に四国内の教育関係者を対象に具体的な各学校や教員の取組について、不安や悩みの軽減を図るとともに、各教員の資質向上につながる研修内容を香川県教育センターとの連携・協働で提供してきた。</li> <li>・ 今年度は、オンライン併用で道徳ラボ研修会を 2 回、英語ラボ研修会を 1 回開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他県からも参加があり、5 年間の継続で 1800 名超の参加。</li> <li>・ 次年度も多様な形で継続実施を検討。</li> </ul>	<p>資料 15</p>
<p>⑫坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業</p> <p>(高校教育課) 〔担当：県教委〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学教員による指導等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前講座の実施（9 回）</li> <li>・ グループ研究指導（3 回）及び研究室訪問受け入れ</li> <li>・ 大学訪問の受け入れ（1 回）</li> </ul> </li> <li>○ 附属学校における活動（計 12 回） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 附属坂出小学校（6 回）</li> <li>・ 附属坂出中学校（2 回）</li> <li>・ 附属坂出幼稚園（3 回）</li> <li>・ 附属特別支援学校（1 回）</li> </ul> </li> <li>○ 教育創造コースの教育内容に関する検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> </ul>	<p>資料 16</p>

⑭ICT を利用した障害理解、遠隔授業指導、遠隔教育相談 〔担当：教育学部〕	コロナ禍のため実績なし	・継続実施	
---	-------------	-------	--

## 5 その他

項 目	令和2年度実績	令和3年度計画等	資 料
①附属学校への教員派遣 (義務教育課) 〔担当：県教委〕	○ 令和2年度新規派遣 ※ ( ) は合計数 ・ 附属高松小 4 (27) ・ 附属高松中 1 (19) ・ 附属坂出小 4 (18) ・ 附属坂出中 4 (19) ・ 附属特別支援学校 3 (13) ・ 附属幼稚園 1 (5) 計 17 名 (101 名)	・継続実施	

## 令和 2 年度 公立学校インターンシップ実施要領

香川大学教育学部

## 1. 目的

令和 3 年 3 月卒業見込又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学生（大学院生を含む）が、4 月以降の教員としての生活に先立ち、教員の職務の実態に触れることによって、児童・生徒への理解や教員としての職務の理解を深め、教職へ就くことへの意識向上を図る。

## 2. 対象者

令和 3 年 3 月卒業又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学生（ただし教職大学院生及び講師経験のある院生は対象外にすることができる。）

## 3. 参加人数

公立小学校	28 名	公立中学校	10 名
公立小・中学校併願	9 名		
公立高等学校	1 名	公立特別支援学校	1 名

## 4. 実施時期・期間

令和 3 年 2 月～令和 3 年 3 月初旬の間で 1 週間（5 日程度）

## 5. 研修学生（大学院生）、研修校及び研修予定期間

※令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響により「中止」

## 6. 研修内容

- 児童・生徒の指導
- 職員室での仕事
- 学校行事（朝礼等）への参加  
※土日の学校行事・振替日については、研修校と学生が協議の上、決定する。
- 部活の見学（直接指導はしない）
- その他（研修校の判断による）

## 7. 事前・事後指導

## (1) 事前指導

- 教育学部教員による講話等
- 研修校での直前指導
  - ・「本研修で学びたいこと」についてまとめ（A4 判 1 枚程度）、教職支援グループを通じて研修校、香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出

## (2) 事後指導

- 研修の感想等についてレポートにまとめ、教職支援グループを通じて研修校、香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出（A4 判 1 枚程度）

## 8. その他

研修の内容・方法等の詳細については、香川県教育委員会及び研修校と協議の上決定する。

## 令和2年度 第1期教育実践集中講座

# 魅力のある職業 先生になろう。

～夢と笑顔を大切にする教師をめざして～

- 【趣 旨】 ・ 教員になるための準備講座である。  
 ・ 教育法規等の各テーマについて、具体的な事例をもとにケーススタディを行う。

- 【担 当】 客員教授 荻田 泰世（香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事）  
 客員教授 葛西 秀樹（香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事）  
 客員教授 岡 静子（高松市立屋島小学校元校長）

## 【日 程】

日 時	場 所	主 な 内 容	備 考
6月20日(土) (13:00~17:00)	415 講義室	<講義・演習> (荻田・葛西) 【教育法規】Ⅰ「教員になる①(荻田)」 「教員になる②(葛西)」	「教育法規入門」の 集中講義として行う。 (豊島・久米)
6月27日(土) (13:00~17:00)	415 講義室	<講義・演習> (荻田・葛西) 【教育法規】Ⅱ「教員になる③(荻田)」 「教員になる④(葛西)」	「教育法規入門」の 集中講義として行う。 (豊島・久米)
7月 6日(月) (10:30~12:00)	オンライン	<講義・演習> (葛西) 【教育理解】 「学校について理解しようー教職の魅力」	「教職概論(ロ)」の 講義として行う。 (山田(貴))
7月 6日(月) (16:20~17:50)	621 講義室	<講義・演習> (岡) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論(イ)」の 講義として行う。 (毛利)
7月13日(月) (14:40~16:10)	オンライン	<講義・演習> (葛西) 【道徳教育】 「道徳科の多様な授業づくり ～心を耕す道徳の授業～」	「道徳教育論(イ)」の 講義として行う。 (櫻井)
7月13日(月) (16:20~17:50)	621 講義室	<講義・演習> (岡) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(イ)」の 講義として行う。 (毛利)
7月20日(月) (16:20~17:50)	621 講義室	<講義・演習> (岡) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(イ)」の 講義として行う。 (毛利)
7月29日(水) (13:00~15:00)	415 611 講義室	<講義・演習> (荻田) 【子ども理解】 「附属学校参観の心がまえ」	「教育実践プレ演習」 の講義として行う。 (松下)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先 附属教職支援開発センター事務局 TEL : 087-832-1683

## 令和2年度 第2期教育実践集中講座

# プロの教師とは何か？

## ～教師になるあなたへのエール～

- 【趣 旨】・学校現場における実際の指導(教科、道徳、総合的な学習の時間)の在り方について考える。  
・未来への夢や教師への憧れが膨らむような事例を通して、教師のやりがいを探る。

- 【担 当】客員教授 荻田 泰世(香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事)  
客員教授 葛西 秀樹(香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事)  
客員教授 岡 静子(高松市立屋島小学校元校長)

### 【日 程】

日 時	場所	主 な 内 容	備 考
10月30日(金) (8:50~12:00)	オンライン	<講義・演習>(葛西・岡) 【教育課題の探究】 「いじめ問題の現状と課題」(葛西) 「教員としての倫理観」(岡)	「教職実践演習」の 講義として行う。 (山岸)
11月9日(月) (8:50~10:20)	オンライン	<講義・演習>(岡) 【教職理解】 「学校について理解しよう④(中学校)」	「教職概論(イ)」の 講義として行う。 (松下)
11月9日(月) (16:20~17:50)	415 講義室	<講義・演習>(岡) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論(ロ)」 の講義として行う。 (毛利)
11月9日(月) (18:00~19:30)	415 講義室	<講義・演習>(荻田) 【教育の最新情報】① 「教師に求められる力」	「教職の総合的研究 (ロ)」の講義として 行う。 (豊島・久米)
11月11日(水) (13:00~16:30)	オンライン	<講義・演習>(荻田・岡) 【教育実習事後指導】 「教育実習を振り返って」 シンポジウム・助言	「教育実践演習A」 (教育実習事後指 導)の講義として行 う。 (山岸)
11月16日(月) (8:50~10:20)	オンライン	<講義・演習>(葛西) 【教職理解】 「教職を知る②」 ～教職の魅力、私の経験から～	「教職概論(イ)」の 講義として行う。 (松下)
11月19日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(葛西) 【生徒指導・進路指導】ケーススタディ 「小学校の事例を中心に」	「生徒指導・進路指 導論」の講義として 行う。 (毛利)
11月26日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(荻田) 【生徒指導・進路指導】ケーススタディ 「小学校における生徒指導の実際」	「生徒指導・進路指 導論」の講義として行 う。 (毛利)



11月30日(月) (18:00~19:30)	415 講義室	<講義・演習>(葛西) 【教育の最新情報】③ 「教育課程と学校評価」	「教職の総合的研究 (口)」の講義として 行う。 (豊島・久米)
12月3日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(岡) 【理論と方法】 「生徒指導対応」	「生徒指導・進路指 導論」の講義として 行う。 (毛利)
12月11日(金) (8:50~12:00)	オンライン	<講義・演習>(葛西・岡) 【校種別による選択実務研修】 「はばたけ若き力を生かして ～4月からの心がまえ～」 中学校(葛西)・小学校(岡)	「教職実践演習」の 講義として行う。 (山岸)
12月14日(月) (8:50~10:20)	オンライン	<講義・演習>(荻田) 【教職理解】 「授業について考える よい授業とは・よい保育とは」	「教職概論(イ)」の 講義として行う。 (松下)
12月16日(水) (10:30~12:00)	オンライン 教授法 演習室	<講義・演習>(岡) 【人権教育】 「学校教育における人権教育 小学校での取組事例に学ぶ」	「人権教育」の講義 として行う。(櫻井)
1月18日(月) (13:00~14:30)	オンライン	<講義・演習>(葛西) 【道徳教育】ケーススタディ 「道徳科の多様な授業づくり ～心を耕す道徳の授業～」	「道徳教育論(口)」 の講義として行う。 (櫻井)
2月1日(月) (18:00~19:30)	オンライン	<講義・演習>(岡) 「学級で育つ子どもたちのために」	「教職の総合的研究 (口)」の講義として 行う。 (豊島・久米)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先 附属教職支援開発センター事務室 TEL: 087-832-1683

## 香川大学教育学部の専任教員として ～18年目の取組と今後の展望～

大熊裕樹・久米亜弥・豊島 修

### 1 18年目の活動内容 <資料3-2参照>

### 2 今年度の取り組みの重点

香川大学教育学部では、「4か年を見通した実地教育プログラム」が構築されている。このプログラムにおいて、交流人事教員の教職支援をまとめたものが表1「4か年を見通した教職支援」である。このうち、下線を引いた授業の概要を以下に紹介する。

	1年次	2年次	3年次	4年次		
	学校理解	子ども理解	授業理解	教職理解		
授業	大学入門ゼミ 教職概論(ロ)	教職概論(イ)  教育学実践プレ演習  教育学チユートリアルⅠ 教育学演習ⅠA 学校教育課程論A	初等授業研究 生活科授業研究 教育学演習ⅡB 学校教育課程論B	教育実践演習 教育学演習ⅡA 教育学チユートリアルⅡ	教職の総合的研究(ロ) 教育学演習ⅡB 人権教育 授業実践論 教育学演習ⅢA 教育法規入門	教職実践演習 教育学演習ⅢB
就職セミナー			就職ガイダンス	就職ガイダンス 筆記対策	集団面接 個人面接 模擬授業	卒業前セミナー 公立校インターンシップガイダンス
その他	教育相談	採用試験説明会	採用試験説明会	教職自主サークル採用試験説明会	教職自主サークル採用試験説明会	→

【表1 4か年を見通した教職支援】

□ …交流人事教員が中心となる授業等

#### (1) 学校現場に即した授業の充実

「授業実践論」において学生は、基本的な授業づくり（課題の設定、発問、板書の仕方等）を踏まえて授業構想を立て、模擬授業や事後討議を行うことを通して、実践的な授業研究について学んでいる。他に、模擬面接・集団活動も行い、教育への見方・考え方を深めることができるようにしている。本授業は、交流人事教員3名が中心となり指導に当たっているが、教員採用試験に向けた「教職セミナー」との連携を図ることで、多くの学部教員が模擬授業、模擬面接・集団活動等の指導に関わることができるようにした。

また、教員をみぞすほとんどの4年生が受講する「教育法規入門」では、基本的な教育法規（教基法、学校法、地公法、教特法等）及び答申・通知等について、事例をもとにしながら解説を加え、理解を深めるとともに、法令遵守精神の高揚を図っている。授業実践論と同じく、客員教授とも連携を図り、授業の質を高めることができている。

次に、久米と豊島が中心となって行っている2つの授業を紹介する。4年生後期「教職実践演習」の授業では学級経営や生徒指導について、学校の現状の中での児童生徒への具体的指導法等を、演習も交えて指導している。以下の学生の感想からは、充実した学びができている様子がうかがえる。

### 【授業後の学生（４年生）の感想】

- ・ 新採で小学校教諭になることがずっと不安で・・・。他の先生方と情報を共有し、助けを求めることも大切だと知った。
- ・ 生徒指導に関することが書かれている書籍のこと以外に、先生の今までの経験についての話聞くことができた。
- ・ 来年から教師になることに対して不安になっている。どのように叱るのか等、小手先のテクニックばかり考えていた。しかし、根本的な授業の分かりやすさ、面白さというものがあれば生徒指導もうまくいくことに改めて気づいた。
- ・ 今回、実際に（子どもに向けて）話す言葉を先生が実演してくださったので、こういう風に言えばいいのだとよく分かった。

教職をみざす自覚がより高まる時期の３年生には「教職の総合的研究（ロ）」（後期）の授業を行っている。「就職セミナー」や「教職自主サークル」（学生の自主勉強会）と連携、協力しながら、さまざまなテーマで授業を行った。学校現場の各分野で活躍されている方々の講義から教職の基本的実践について学び、教育の最新事情についての理解を深めることができた。先輩の現役教員の講話から教育現場の現状を知ったり、４年生からは教員採用試験に向けての助言を受けたりした。一昨年度より開設したこの授業は、３年生の、教職への意欲を高める大きな契機となっている。

学部２、３、４年生を対象にした「人権教育」の授業では、豊島が教科の専門性を生かしながら、中学校、高校において実践されている人権教育や、そのあり方等について講義を行った。このように、担当する各授業において、交流人事教員がこれまで学校現場で培ってきたそれぞれの専門性を生かし、工夫した授業を行っているところである。

表１の授業以外の、教職大学院においては、大熊が他の大学院教員と連携しながら授業を担当している。「道徳授業の実践研究」では、道徳科におけるより効果的な表現活動のあり方について講義している。また、「授業研究の実際」、「指導法分析と学習支援」では、授業における質の評価のあり方や、授業分析・授業研究について、演習を交えながら授業を行った。いずれも学校現場の実践事例をもとにして演習や協議を組み入れるなど、院生の学びが深まるよう支援を行っている。

### （２）学生への個別指導（演習ゼミ）

久米、豊島は他教員とも連携し、「教職実践ゼミ」において学生を指導する演習ゼミ指導を行っている。３、４年生各６名の指導を担当し、４年次は卒業論文の研究テーマに即して、公立学校における授業参観や教師へのインタビュー等の実践的な学びを通して指導し、求められる教員としての資質・能力の向上を目ざしている。

また、大熊は「教職実践研究」として、本年度は、院生（学部卒生）２名の指導を担当し、それぞれの研究テーマに基づいた指導を行っている。院生が週１日継続的に行っている公立校での実習を通して得た実践的学びをさらに深められるよう指導し、教職大学院のテーマである「理論と実践の往還」の実現に努めている。

### （３）教育委員会・各学校との連携

今年度も従来通り、人的ネットワークを生かして学内外の橋渡し役を務めてきた。地域ブロック研修会での講師、研究大会での指導助言者として、県下の学校等における様々な教育活動推進に尽力してきた。例年４年生が実地研修として参加している香小研高松支部教科研修会においても、各教科部会や学校と事前の連絡調整を行っているところであるが、今年度はコロナ禍のため学生の参加は行っていない。

各学校から依頼のあった学習支援や校外活動へのサポート等については、実施に向けて連絡・調整を行った。「生活科授業研究」で

「秋みつけ」授業の様子



は、坂出市立坂出小学校へ学生を引率し、生活科の授業参観を通して教師の具体的な支援の仕方について実地で学ぶことができるようにした。また、高松市立新番丁小学校の1年生全員を香川大学に招待し、構内を散策しながら「秋みつけ」の授業を学生主体で行った。授業後に子どもたちから届いた「お兄さん、お姉さんと秋みつけができて楽しかった」、「やさしく教えてくれて嬉しかった」等のお礼の手紙を読み、学生は「涙が出るほど感激した」と教職の魅力を実感したようだった。他にも、地域の方による読み聞かせ活動の見学や、卒業研究に関わる授業参観等、学生が実際の学校現場の様子を肌で感じながら学ぶことができるよう配慮、連携に努めている。



#### (4) 教員採用選考試験合格へ向けてのサポート～教職自主サークルと個別指導・相談～

授業外では特に、「教職自主サークル」（学生の自主勉強会：毎週月曜日 18:00～19:30）や、「個別指導・相談」（教員の空き時間等活用）等を通して教職を志す学生を支援している。「教職自主サークル」には教員志望の学生の多くが参加し、互いに研鑽する場となっている。交流人事教員3名は毎回オブザーバーとして参加し、指導・助言を行っている。集団討論や模擬授業等に関する各自自治体の採用試験の情報・意見交換を行っており、本学ならではの伝統的取組だと内外の評価も高い。交流人事教員は、これらについて学校現場に即した情報を教えるとともに、教育課題をどう捉え、対応するか等、教員としての心構えや仕事の実際について助言を行っている。さらに、8月には二次試験対策として「先輩教員からの模擬授業指導」を、さらに11月には、教職2年目の卒業生から、教職の実際について講話を聴く「卒業生と在校生との交流会」を「教職の総合的研究（ロ）」の授業とタイアップして実施し、学生にとって有意義な学びとなっている。



また、採用試験に向けて個別、グループ指導を望む学生も多くおり、採用試験の願書作成指導、模擬授業、面接・集団活動について個別指導を行っている。これらの指導には、授業以外の多くの時間を要するが、個々の学生とのつながりや理解を深める貴重な機会となっており、交流人事教員が特に力を入れている支援活動である。

#### (5) 大学行事を通しての学生支援

コロナ禍のため、今年度は講座を担当することがなかったが、例年10月に行われる「未来からの留学生（教育学部フェスティバル in 香大）」での「おんどくリンピック」や「ブロックで遊ぼう！」の講座を担当し、学生と子どもたちがふれ合う機会を支援している。

代わって開かれた10月24日（土）「未来からの留学生サテライト」では、「香川大学の学生さんとお勉強タイム」や「香大生とあそぼう おはなしの国2020」の講座において、学生と高松市立鶴尾小学校の子どもがふれ合うことができるよう、学生への支援補助を行った。教育実習等とはまた違った環境の中で子どもたちとふれあい、勉強を教えたり語りかけ方を学んだりするよい機会となった。各講座の事前準備において交流人事教員も助言を行い、学生を支援した。コロナ禍のなかで教育領域の2年生が中心となって企画運営に携わった。学生にとっては、子どもたちと関わる貴重な学びの機会になったとともに、自信を深める機会ともなった。



### 3 今後の課題

現体制（学部担当2名、教職大学院1名）での取組が始まり5年目となる。これまでの交流人事教員が築いてきた功績を受け継ぎながら、さらなる効率化、授業の質の向上を目標としている。平成29年度から構築された新たなシステム（表1）を基に、様々な授業科目・内容・体制等について周りの教員と連携して取り組んでいるところである。

今年度は、コロナ禍の影響によりオンラインでの授業を余儀なくされた。学生も教職員も初めての経験に戸惑いながらも工夫を凝らし、学びの機会を確保できたことは一つの成果であった。一方、対面での授業が少なく、教師と学生、各学年間の繋がりがうまくつくれなかったこと、教育の質の確保などが今後の課題として残った。

教員の総合的な資質能力の向上が求められている今、交流人事教員それぞれの教職経験から、教職の魅力ややり甲斐について学生に伝えることを通して、心構えを育て、教職の技能を高めていくことが重要である。交流人事教員としての重責を自覚し、将来の教育界を支える優秀な人材の育成に、今後ともしっかりと取り組んでいく所存である。

## ＜資料3-2＞

### 18年目の活動内容

(※ 今年度はコロナ禍により開催が中止となった会・行事が多くあり、例年に比べ活動が減少している。)

#### 1 学内における活動

##### (1) 委員会等

＜大熊＞ 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、教職大学院専攻委員

＜久米＞ 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー

＜豊島＞ 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー

##### (2) 授業等

＜大熊＞【教職大学院】指導法分析と学習支援、道徳授業の実践研究、教職実践研究Ⅰ・Ⅱ、授業力開発実習Ⅰ・Ⅱ、探究実習、授業研究の実際、教職実践研究交流会、教職実践研究フォーラム

【学部】学校教育課程論、教職概論(イ)、教育法規入門、教職の総合的研究、授業実践論、就職セミナー、教職自主サークル

＜久米＞ 大学入門ゼミ、教育学演習ⅠB、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育学チュートリアルⅠ・Ⅱ、学校教育課程論B、教職概論イ、授業実践論、教育法規入門、教職の総合的研究(ロ)、教職実践演習、生活科授業研究、初等授業研究、就職セミナー、教職自主サークル、卒論指導・主査、卒論副査

＜豊島＞ 大学入門ゼミ、生活科授業、教育学演習ⅠA・B、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育学チュートリアルⅠ・Ⅱ、学校教育課程論A・B、教職概論(イ)・(ロ)、教育法規入門、教職の総合的研究(ロ)、授業実践論、教育実践演習、教職実践演習、人権教育、就職セミナー、教職自主サークル、卒論指導・主査、卒論副査

##### (3) その他

＜大熊＞ 卒業前対策講座担当、未来からの留学生講座担当(例年)、松楠会学内理事

＜久米＞ 「教職実践演習」WG、未来からの留学生講座担当(例年)、卒業前対策講座担当、松楠会学内理事

＜豊島＞ 「教職実践演習」WG、未来からの留学生講座担当(例年)、卒業前対策講座担当

#### 2 学外における社会的活動

＜大熊＞(講演等)香川県教職員連盟講師部会研修会講師(2020.6、8)、坂出綾歌国語同好会研修会講師(2020.7)、香川県保健師助産師看護師実習指導者講習会講師(2020.10)、香小研国語研究大会(5年生研究授業)指導者(2020.10)、「小さな親切」運動作文(審査)(2020.09)大学入学共通テスト試験(監督)(2021.1)

＜久米＞(委員等)香川県がん教育推進委員

＜豊島＞大学入学共通テスト試験(監督)(2021.1)

## 大学教員の公立学校現場での研修制度

学校教員の実践的・臨床的な資質向上を図るためには、教員養成を担う教育学部がその授業の内容を学校現場と結びつけ、学校の「教育実践」という視点から再構成することが必要です。このためには、大学・学部教員が従来以上に学校現場との関わりを深める必要があります。

こうしたことから、香川大学教育学部では、平成 15 年より香川県教育委員会との連携のもと、大学・学部教員が学校現場で自己研鑽する制度を設けています。

令和 2 年度は、笹屋孝允准教授、清水顕人准教授など、小学校での勤務経験のある方々を採用することができました。お二人については公立学校での研修は免除としました。今回は、数学教育の宮崎隼人准教授も、高等専門学校高等部での勤務経験はあられるが、小学校での研修を希望されましたので、高松市立鶴尾小学校で 1 日間の研修に取り組みました。

### 研修を行った大学教員

准教授	宮崎 隼人	(数学教育・解析学)
研修校	高松市立鶴尾小学校	
研修日	令和 2 年 11 月 18 日 (水)	

## 令和2年度香川県教育委員会免許法認定講習(特別支援学校教諭)

## 1 目的

特別支援学校教員及び小・中学校特別支援学級担当教員等を対象として、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める免許法認定講習を開設し、特別支援学校教諭二種及び一種免許状を取得、または領域の追加をするための所要単位を修得させるとともに、その資質の向上を図る。

## 2 開設科目、受講人員、期間

	開 設 科 目	受講者数	月日(曜日)
講義 I	聴覚障害者の心理・生理及び病理	50名	8月6日(木)・7日(金)
講義 II	視覚障害者の教育課程及び指導法	60名	8月22日(土)・23日(日)
講義 III	重複・発達障害者の教育総論	48名	8月29日(土)・30日(日)
講義 IV	特別支援教育の基礎理論	51名	9月5日(土)・9月6日(日)

## 3 日 程 (全講義同一日程)

時 間	8:45	9:00	9:10	10:40	11:00	12:30	13:30	15:00	15:20	16:50
第 1 日	受付	おエンタメーション		講義①②	休憩	講義③④	昼食	講義⑤⑥	休憩	講義⑦⑧
第 2 日		受 付		講義⑨⑩	休憩	講義⑪⑫	昼食	講義⑬⑭	休憩	講義⑮⑯

## 4 講 師 (香川大学)

	期 日	科 目	講 師
講義 III	8/29・30	重複・発達障害者の教育総論	教授 武藏 博文 教授 小方 朋子
講義 IV	9/5・9/6	特別支援教育の基礎理論	教授 小方 朋子

## 香川大学教員免許状更新講習 令和2年度

## 1. 令和2年度 実施状況

## ■ 令和2年6月～10月 開講

	講習数	申込者数	受講者数 (選択講習は延べ数)
必修講習	6	608	508
選択必修講習	18		512
選択講習	59		1,437
廃止講習	12	合計	2,457

\*Zoomを用いた同時双方向型

開設期間	講習名	講師名	受講人数	合格者
6月14日(日)	*【選択】深い学びを実現する算数・数学の学習	松島 充	24	24
6月21日(日)	【必修】1)教育の最新事情	毛利 猛 坂井 聡	106	106
6月27日(土)	【選択必修】学校・家庭・地域の連携1	大村 隆史	49	49
	【選択】教育にも適用可能な経営学の理論2	西中 美和	5	5
	【選択】少年非行・犯罪の現状と少年法1	吉井 匡	26	26
	【選択】エクセルを用いた基本統計処理	堀川 洋	29	29
6月28日(日)	【選択必修】教育相談ははじめの第一歩—いじめ・不登校を中心に—2	林 智一	12	12
	【選択必修】初心者に向けた小学校におけるVisual Programmingを用いたプログラミング教育	宮崎 英一	10	10
	【選択】少年非行・犯罪の現状と少年法2	吉井 匡	22	22
	*【選択】心理学からみた学習意欲	岡田 涼	38	38
7月4日(土)	【選択必修】発達障害と教育相談1	武蔵 博文	26	26
	【選択】小学校教員を対象とした器楽演奏の実践(ピアノ伴奏法)	東浦 亜希子	5	5
	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント1	石川 雄一	12	12
	【選択】楽しく学んで、楽しく実践、やさしい健康講座	宮武 伸行	48	48
	【選択】現代日本の選挙と政治1	堤 英敬	3	3
7月5日(日)	*【選択】深い学びを実現する算数・数学の学習2	松島 充	8	8
	【選択】発声指導法(児童発声・変声期)と歌唱実践	若井 健司	15	15
	【選択】企業の社会的責任と社会的経済1	朴 恩芝	19	19
7月12日(日)	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント2	石川 雄一	9	9
7月19日(日)	【必修】2)教育の最新事情	橋本 忠行 小方 直幸	117	117
	【選択】企業の社会的責任と社会的経済2	朴 恩芝	6	6
8月1日(土)	【必修】3)教育の最新事情	大久保 智生 山岸 知幸	114	114
	【選択】摂食障害から現代的課題を考える1	渡邊 久美 蔵本 綾	35	35
8月2日(日)	【選択必修】国際理解教育としての地理教育を考える	平 篤志	23	23
	【選択必修】教育相談ははじめの第一歩—いじめ・不登校を中心に—1	林 智一	36	36
	【選択】小学校教員を対象とした器楽演奏の実践(リコーダー)	青山 夕夏	10	10
8月8日(土)	【選択】教師の指導が助長する問題行動とその見方	大久保 智生	147	147
	【選択】はじめての特別支援教育	小方 朋子 中島 栄美子	99	99
8月9日(日)	【選択必修】カウンセリングマインドを活用した教育相談の方法1	小山 智朗	39	39
	【選択】社会と歴史の教育1	鈴木 正行	32	32
	【選択】外国人児童生徒と言葉について考える	山下 直子	14	14
	【選択】衣・食・住の生活文化と環境1	妹尾 理子	16	16
8月10日(月)	【選択必修】学校カウンセリングの基本	山田 俊介	39	39
	【選択】社会と歴史の教育2	鈴木 正行	23	23
	【選択】学力と資質・能力を伸ばす学級づくりと授業づくり	野崎 武司	51	51



開設期間	講習名	講師名	受講人数	合格者
8月18日(火)	【選択必修】カウンセリングマインドを活用した教育相談の方法2	小山 智朗	19	19
	【必修】4)教育の最新事情	松井 剛太 山本 木ノ実	55	55
8月18日(火)	【選択】摂食障害から現代的課題を考える2	渡邊 久美 蔵本 綾	12	12
	【選択】幼稚園教諭の転換点について考える	片岡 元子	24	24
	【選択】地球とその歴史を探る1	寺林 優	15	15
	【選択】臨床心理学的及び医学的側面からみた教育現場での問題への対応法について	神原 憲治/黒滝 直弘 野口 修司/川人 潤子	48	48
	【選択】生きる意味への問いに対する関わり：スピリチュアルニードの理解	清水 裕子 上原 星奈	49	49
	【選択】最新バイオテクノロジー：体験！ゲノム編集技術	田淵 光昭	9	9
	【選択】家畜や野生動物のための栄養学	川崎 淨教	14	14
8月19日(水)	【選択必修】災害対応能力訓練システムを用いた学校現場における地震発生時の対応能力養成実習	井面 仁志 高橋 亨輔	18	18
8月20日(木)	【選択必修】授業の情報化に伴うデータの可視化とプレゼンテーション	黒田 勉	21	21
	【必修】5)教育の最新事情	大久保 智生 櫻井 佳樹	76	76
8月21日(金)	【選択】発達障害への心理学的アプローチ1	恵羅 修吉	29	29
8月22日(土)	【選択必修】学校に<かえす>心理学	大久保 智生 岡田 涼	68	68
	【選択必修】カウンセリング・コミュニケーションについての講義と演習	竹森 元彦	29	29
	【選択】化学物質を介した植物間の相互作用	加藤 尚	7	7
	【選択】地球とその歴史を探る2	寺林 優	15	15
8月23日(日)	【選択必修】英語科教育概論	中住 幸治	13	13
	【選択】教育にも適用可能な経営学の理論1	西中 美和	39	39
	【選択】野菜の特性に着目して教材を再検討する1	畦 五月	12	12
	【選択】環境に優しいマイクロスケール化学実験ならびに生物化学の基礎	小森 博文 高木 由美子	6	6
	【選択】科学的思考力の発達を促進する理科授業の実習	笠 潤平	15	15
9月5日(土)	【選択必修】学校・家庭・地域の連携2	大村 隆史	49	49
	【選択必修】発達障害と教育相談2	武藏 博文	21	21
	【選択】平安文学教材研究	北原 圭一郎	18	18
9月6日(日)	【選択】発達障害への心理学的アプローチ2	恵羅 修吉	28	28
	【選択】数学ー中・高の教材に潜む高等数学	内藤 浩忠	19	19
	【選択】思考ツールを活用した国語学習の方法	山本 茂喜	24	24
	【選択】運動が苦手な子にもやさしいボール運動教材を考える	米村 耕平	29	29
9月12日(土)	【選択】初等整数論と暗号理論への応用	高野 啓児	16	16
	【選択】子どもを取り巻く環境(メディア・生活習慣・身体活動等)と保健に関わる話1	宮本 賢作	50	50
	【選択】経済学における数学の応用	星野 良明	10	10
	【選択】科学史をふまえた理科教育論	北林 雅洋	7	7
9月13日(日)	【選択】小中高理科で扱う圧力と真空の世界	高橋 尚志	25	25
	【選択】子どもを取り巻く環境(メディア・生活習慣・身体活動等)と保健に関わる話2	宮本 賢作	50	50
9月26日(土)	【選択必修】道徳教育の充実1	植田 和也 清水 顕人	18	18
	【選択】表現を探るー楽曲の分析を通してー	岡田 知也	10	10
	【選択】天文と気象に関する話題について	寺尾 徹 松村 雅文	19	19
	【選択】絵画(木炭デッサン)制作	古草 敦史	11	11
	【選択】ニュージーランドにおける小・中・高等学校での第二言語教育：過去と現在	バテン ポール	24	24
9月27日(日)	【必修】6)教育の最新事情	柳澤 良明 岡田 涼	40	40
	【選択】性はなぜあるのか？	松本 一範	16	15

開設期間	講習名	講師名	受講人数	合格者
10月3日(土)	【選択】 土壌動物の多様性と機能	豊田 鮎	7	7
10月17日(土)	【選択必修】 ICTを活用した「未来の学び」を、知ろう！→考えてみよう！→創ってみよう！	松下 幸司	22	22
	【選択】 消費行動と生活経営	時岡 晴美	14	14
10月18日(日)	【選択】 児童期における体育・スポーツ指導	上野 耕平	31	31
	【選択】 国語表現演習	佐藤 明宏	17	17
	【選択】 篆刻—印章の制作—	小西 憲一	22	22
計			2,457	2,456

▶ 廃止講習

・一次募集終了時に応募者が5名に満たなかった講習

8月18日(火)	【選択】 衣・食・住の生活文化と環境2
8月18日(火)	【選択】 ナノテクノロジーと電子材料
9月5日(土)	【選択】 プログラミング言語の最新動向
9月5日(土)	【選択】 現代日本の選挙と政治2
9月13日(日)	【選択】 野菜の特性に着目して教材を再検討する2
9月13日(日)	【選択】 「自由」について考える
9月27日(日)	【選択必修】 道徳教育の充実2
9月28日(月)	【選択】 中国朝鮮族のトランスナショナルな移動と生活
10月17日(土)	【選択】 幾何学的不変量に関する概論

・講師の都合により廃止となった講習

7月5日(日)	【選択】 西洋史
7月12日(日)	【選択】 歴史学

・新型コロナウイルス感染症 感染拡大防止のため廃止となった講習

8月10日(月)	【選択】 からだでこころで感じて動く表現の世界
----------	-------------------------

▶ 県別受講状況

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
香川	578	531	523	569	850	1,048	853	588
(県外)								
徳島	7	10	12	14	15	15	13	2
愛媛	24	17	26	22	27	17	16	6
高知	3		7	4	2	3	3	
島根			1	2		1		
岡山	1	4	15	12	23	12	15	7
広島		1	3	3	6	1	2	1
鳥取				1			1	
山口				2				
その他	6	19	13	9	17	15	12	4
小計	41	51	80	69	90	64	62	20
合計	619	582	603	638	940	1,112	915	608

▶ 年度別受講状況

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
受講申込者数	561	717	585	619	582	603	638	940	1,112	915	608
必修	473	571	482	497	489	482	553	676	878	667	508
選択必修							536	665	840	623	512
選択(延べ)	1,341	1,563	1,333	1,479	1,357	1,290	1,365	1,843	2,144	1,848	1,437

## 2. 令和3年度 実施計画

(令和3年6月～10月)

	講習数	定員
必修講習	7	750
選択必修講習	16	772
選択講習	70	2,102
合計	93	3,624

※応募人数が5名に満たない場合は講習を廃止することがあります。日程等は変更する場合があります。

令和2年12月現在

開設期間	講習名 (*:Zoomを用いた同時双方向型)	定員	対象職種
6月12日(土)	【選択必修】初心者に向けたVisual Programmingを用いたプログラミング教育入門	10	教,養,栄
	【選択】発達障害への心理学的アプローチ1	30	教,養
	【選択】児童期における体育・スポーツ指導	32	教
	【選択】深い学びを実現する算数・数学の学習1	30	教
6月19日(土)	【選択必修】教育相談ははじめの第一歩ーいじめ・不登校を中心にー1	40	教,養,栄
	【選択必修】発達障害と教育相談	30	教,養,栄
	【選択】小中高理科で扱う圧力と真空の世界	25	教
	【選択】PCR法を用いてメンデルの遺伝法則を体感してみよう	20	教,養,栄
6月20日(日)	【選択】ニュージーランドにおける小・中・高等学校での第二言語教育：過去と現在1	40	教
	【必修】1)教育の最新事情	100	—
6月26日(土)	【選択必修】災害対応能力訓練システムを用いた学校現場における地震発生時の対応能力養成実習	20	教,養,栄
	【選択必修】国際理解教育としての地理教育を考える	40	教,養,栄
	【選択必修】カウンセリング・コミュニケーションについての講義と演習	30	教,養,栄
	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント1	20	教
6月27日(日)	【選択】モノを買う仕組みをデータ分析の観点から考える1	40	教,養,栄
	【選択必修】教育相談ははじめの第一歩ーいじめ・不登校を中心にー2	40	教,養,栄
	【選択】心理学からみた学習意欲	40	教
	【選択】企業の社会的責任と社会の持続可能性について1	30	教
7月3日(土)	【選択】日本近代文学において〈子ども〉はいかに描かれたか	30	教
	【選択】科学的思考力の発達を促進する理科授業の実習	20	教
	【選択】深い学びを実現する算数・数学の学習2	30	教
	【選択】モノを買う仕組みをデータ分析の観点から考える2	40	教,養,栄
7月18日(日)	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント2	20	教
	【必修】2)教育の最新事情	120	—
	【選択必修】英語科教育概論	20	教,養,栄
	【選択】企業の社会的責任と社会の持続可能性について2	30	教
7月31日(土)	【選択】器楽演奏の実践(リコーダー)	10	教
	【必修】3)教育の最新事情	120	—
	【選択】少年非行・犯罪の現状と少年法1	40	教
	【選択】外国人児童生徒と言葉について考える	15	教,養
8月1日(日)	【選択】果樹園芸学	20	教
	【選択】臨床心理学的側面からみた教育現場での問題への対応法について	50	教,養,栄
	【選択】教師の指導が助長する問題行動とその見方	150	教,養
	【選択】社会と歴史の教育1	40	教
8月7日(土)	【選択】少年非行・犯罪の現状と少年法2	40	教
	【選択必修】学校に<かえす>心理学	150	教,養,栄
	【選択必修】学校・家庭・地域の連携1	70	教,養,栄
8月8日(日)	【選択】日常生活から法律問題を考える	20	教
	【必修】4)教育の最新事情	100	—
	【選択】発声指導法(児童発声・変声期)と歌唱実践	10	教
	【選択】社会と歴史の教育2	40	教

開設期間	講習名	定員	対象職種
8月9日(月)	【必修】5)教育の最新事情	120	—
	【選択】野菜の特性に着目して教材を再検討する1	12	教, 栄
8月18日(水)	【選択】ナノテクノロジーと電子材料	15	教
8月19日(木)	【選択】女木島の地質探索1	15	教
8月20日(金)	【選択】女木島の地質探索2	15	教
8月21日(土)	【選択】希少糖とその生産方法	10	教, 栄
8月22日(日)	【必修】6)教育の最新事情	120	—
	【選択】フランス哲学と哲学カフェ	30	教
	【選択】因果関係とデータ分析	30	教, 養, 栄
8月23日(月)	*【選択必修】職業教育を考える	12	教, 養, 栄
8月24日(火)	【選択】環境に優しいマイクロスケール化学実験ならびに生物化学の基礎	30	教
	【選択】学びへの誘い～きっかけとしての子ども向け映像作品1	40	教
	【選択】子どもと楽しむ身体表現活動1	20	教
	【選択】在宅看護と家族看護の理解	30	教, 養, 栄
	【選択】疾病や生きづらさを持ちながら生活する子どもたち	40	教, 養, 栄
8月25日(水)	【選択必修】授業の情報化に伴うデータの可視化とプレゼンテーション	30	教, 養, 栄
	【選択】発達障害への心理学的アプローチ2	30	教, 養
	【選択】学びへの誘い～きっかけとしての子ども向け映像作品2	40	教
	【選択】小児医療のトピックス	40	教, 養, 栄
8月26日(木)	【選択必修】学校カウンセリングの基本	40	教, 養, 栄
	【選択】幼稚園教諭の転換点について考える	25	教
	【選択】子どもと楽しむ身体表現活動2	20	教
9月4日(土)	【選択】Blocklyによるプログラミング入門	15	教
9月5日(日)	【選択】異文化理解と英語によるコミュニケーション能力1	40	教
	【選択】国語表現演習	30	教
	【選択】小学校・中学校歌唱共通教材のピアノ演奏の実践(伴奏法)	10	教
	【選択】絵画(木炭デッサン)制作	12	教
9月11日(土)	【選択必修】道徳科を要とした道徳教育の推進1	70	教, 養, 栄
	【選択】西洋史	30	教
	【選択】科学史をふまえた理科教育論	30	教
	【選択】異文化理解と英語によるコミュニケーション能力2	40	教
9月12日(日)	【選択】初等整数論と暗号理論への応用	30	教
	【選択】「自由」について考える	30	教
	【選択】倫理について考える	40	教, 養
	【選択】中国古代帝王伝説	30	教
9月25日(土)	【選択必修】道徳科を要とした道徳教育の推進2	70	教, 養, 栄
	【選択】パスカル三角形に潜む数学	30	教
	【選択】ニュージーランドにおける小・中・高等学校での第二言語教育:過去と現在2	40	教
	【選択】消費行動と生活経営	30	教
	【選択】子どもを取りく環境(メディア・生活習慣・身体活動等)と保健に関わる話	30	教
9月26日(日)	【必修】7)教育の最新事情	70	—
	【選択】運動が苦手な子にもやさしいボール運動教材を考える	30	教
10月9日(土)	【選択】身の回りで活躍する微生物	18	教, 養, 栄
10月16日(土)	【選択必修】学校・家庭・地域の連携2	100	教, 養, 栄
	【選択】特別支援教育	80	教, 養, 栄
	【選択】表現を探る-楽曲の分析を通して-	10	教
	【選択】性はなぜあるのか?	25	教
10月17日(日)	【選択】思考ツールを活用した国語学習の方法	30	教
	【選択】天文と気象に関する話題について	21	教
	【選択】野菜の特性に着目して教材を再検討する2	12	教, 栄
	【選択】エクセルを用いた基本統計処理	35	教
	【選択】幾何学的不変量に関する概論	20	教

## 香川大学教職リカレント教育プログラム（免許状更新講習） 令和2年度

- ・ 文部科学省委託事業として9講座を開設した。  
「就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業」

- 講習形態: オンライン講座
- 講習期間: 令和2年10月11日～令和3年2月28日
- 試験期間: 令和2年10月28日～令和3年3月3日

## ■ 実施状況（令和2年12月現在）

## 1. 講座別受講者数

	領域	講習名	担当講師	申込者数
1	必修	【必修】教育の最新事情	毛利 猛、坂井 聡	62
2	選択必修	【選択必修】学校に<かえす>心理学	大久保 智生、岡田 涼	52
3	選択必修	【選択必修】道徳教育の充実	植田 和也	9
4	選択	【選択】学校に<かえす>心理学	大久保 智生、岡田 涼	8
5	選択	【選択】道徳教育の充実	植田 和也	30
6	選択	【選択】はじめての特別支援教育	小方 朋子、中島 栄美子	54
7	選択	【選択】教師の指導が助長する問題行動とその見方	大久保 智生	56
8	選択	【選択】学校防災について考える	北林 雅洋、寺尾 徹	30
9	選択	【選択】乳幼児理解から「子どもとつくる保育」へ	松本 博雄、松井 剛太	6

## 2. 都道府県別受講者数

香川	30
(県外)	
徳島	1
愛媛	2
岡山	4
広島	1
愛知	1
神奈川	2
東京	3
千葉	2
京都	2
大阪	1
奈良	1
兵庫	4
和歌山	1
山梨	1
長野	1
岐阜	1
宮城	1
佐賀	1
鹿児島	1
福岡	1
小計	32
合計	62

令和 2 年 7 月 1 5 日 (水) 変更

## 令和 2 年度 管理職候補者研修会 主幹教諭・指導教諭・教諭 共通

回	月日 (曜)	研修内容		会場	講師
		講義等	法規演習		
1 回～ 3 回 ※中止					
4 回～ 6 回 ※中止					
7	9 月 1 0 日 (木)	オリエンテーション 学校と市町教育委員会 市町教育委員会と教育事務所 カリキュラム・マネジメント 企業の組織マネジメント	学校保健・安全	県教育センター (大・5)	市町教委事務局職員 現職教頭 事務局職員
8	1 0 月 2 日 (金)	学校組織マネジメント 管理職の職務 (小・中校長)	児童生徒の懲戒 セクシュアル ハラスメント 分限・懲戒	県教育センター (大・5)	現職校長 事務局職員
9	1 1 月 6 日 (金)	目標申告・評価制度 人事評価制度		県教育センター (1・2中)	現職校長 事務局職員
10	1 月 1 9 日 (火)	(午前 半日研修 →全日研修に変更) 免許更新制 学校事務 香川の教育課題 公務災害 学校事故への対応 1 年間の研修のまとめ 教育長講話	講義 (学校事故 への対応) に法 規内容含む	県教育センター (大)	教育長 事務局職員

※第 7 回～第 1 0 回は全日研修 9:00～16:25 受付 8:45～9:00

※県教育センター … 高松市郷東町 587-1

※持参物 教育小六法、香川県教育関係職員事務必携

各市町教育委員会の管理運営規則及び服務規則 (コピー可)

「信頼される教師を目指して」、「わいせつセクハラ事例集」(コピー可)

「個人情報適切な取り扱いと流失の未然防止に向けて」(コピー可)

法規演習資料 7 0 部 (発表者のみ)

※研修内容・講師については、変更となる場合がある。

※管理職候補者研修としての「学校の危機管理研究」は、コロナの影響で中止となった。

教育委員会との連携によるスクールリーダー養成・研修プログラムの開発について  
～教員研修連携科目と教職大学院連携研修の構築～

学校力開発コース

## 1. プログラム開発の背景・趣旨・目的

学校を取り巻く環境の変化に伴い、多様化・複雑化した問題や課題が生起している。そうした中、諸課題を主体的に受け止めて解決を図るスクールリーダーの育成が求められている。他方、教員の志願者のみならず管理職候補者登録選考試験の受験者数が減少傾向にあり、次代の学校教育を推進する人材の育成が喫緊の課題となっている。

香川大学教職大学院は、令和2年4月から「教科領域を含む拡充した教職大学院への移行」に係る改編・拡充を行い、学校力開発コースでは「香川県教育委員会・香川県教育センターとの連携協力を強化し、香川県教員等人材育成方針及び指標に基づいた危機管理をはじめとする高度な実務能力を備えたスクールリーダーの育成に重点的に取り組む」ことを掲げている。教員研修の中核パートナーとして、教員の養成と研修の一体的な取り組みの推進に寄与したいと考えている。

そこで、本年度も「教育委員会との連携によるスクールリーダー養成・研修プログラムの開発～ラーニングポイント制の構築に向けて～」をテーマに、独立行政法人教職員支援機構の事業委託を受け、次の3点の検討を進めている。

- ① 香川県教員等人材育成方針等に基づき、スクールリーダーに求められる資質・能力の育成に係る研修プログラムの開発
- ② スクールリーダー養成研修体系の再構築に向けた検討
- ③ 「学びたい時に学べる」研修環境の構築に向けた遠隔研修と集合研修の在り方の検討

なお、具体的な検討は、本連携協議会の専門委員会の下、昨年度に設置された「教員研修システム共同開発ワーキング」において、香川大学教職大学院、香川県教育委員会・香川県教育センター及び中核市として管内教員の研修主体となっている高松市教育委員会の各担当により協議を行っている。

## 2. 教員研修システム共同開発ワーキングの開催状況

回	開催日	検討内容
第1回	令和2年 6月 2日	○昨年度の実績と今年度の取組について ○新型コロナウイルス感染症流行による変更点について ○教職大学院連携研修等の運用について
第2回	令和2年 7月 7日	○教職員支援機構委託事業の推進計画について ○教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅰ・Ⅱ」の実施計画について ○教員研修に係る遠隔研修について ○教員研修のラーニングポイント制について
第3回	令和2年 9月 1日	○教員研修連携科目の実施状況について ○教職大学院連携研修の試行運用について ○オンライン会議による先進地情報の収集について ※9月18日福井大学教職大学院と福井県教育委員会との連携状況
第4回	令和2年10月20日	○オンライン会議システム Zoom を活用した「リアルタイムオンライン研修」について ○令和3年度教員研修連携科目及び教職大学院連携研修の実施計画について ○今後の教員委員会と教職大学院の連携・協働の在り方について ・管理職を目指す教員の養成 ・教員のより高度な教育実践力の育成
第5回	令和2年11月17日	○「NITS カフェ in KAGAWA」の開催について ○取組状況の広報パンフレットの発行について
第6回	令和2年12月24日	○「NITS カフェ in KAGAWA」における説明内容及び運営等について ※令和3年1月7日実施
第7回	令和3年 1月 20日	○「NITS カフェ in KAGAWA」の実施状況について ○取組状況の広報パンフレットの記載内容について

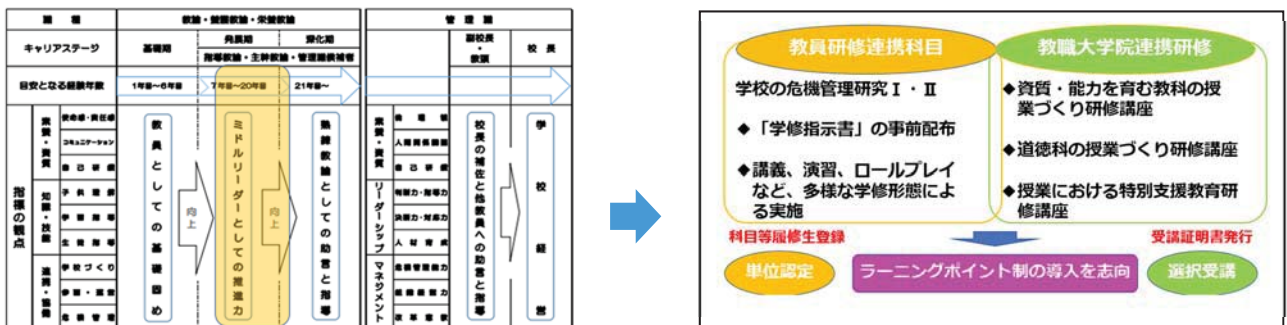


### 3. 教育委員会との連携によるスクールリーダー養成プログラムの実施

#### (1) 教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅰ・Ⅱ」の実施

科目名	実施日時	受講者数 (院生)	学修内容 ※受講者には、「受講証明書」を交付
学校の危機管理研究Ⅰ (集中・1単位)	令和2年 8月4日(火)	(10名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の危機管理と組織運営</li> <li>学校の危機管理と学校安全の考え方Ⅰ・Ⅱ</li> <li>学校の危機管理と積極的生徒指導</li> </ul>
	令和2年 8月6日(木)	(10名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の危機管理と教職員のメンタルヘルスⅠ・Ⅱ</li> <li>学校の危機管理と保護者・地域住民との協働Ⅰ・Ⅱ</li> </ul>
学校の危機管理研究Ⅱ (集中・1単位)	令和2年 9月12日(土)	22名 (10名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の危機管理と児童・生徒の問題行動Ⅰ・Ⅱ</li> <li>学校の危機管理といじめ対応Ⅰ(従来型いじめ編)</li> <li>学校の危機管理といじめ対応Ⅱ (ネットいじめ・ネット問題編)</li> </ul>
	令和2年 9月19日(土)	17名 (10名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の危機管理と保護者との連携Ⅰ・Ⅱ</li> <li>学校の危機管理と学校組織Ⅰ・Ⅱ</li> </ul>

#### (2) スクールリーダーに求められる資質・能力育成プログラム開発の概要



#### (3) 遠隔研修と集合研修の在り方の検討

##### ① 遠隔授業学修指示書の事前配付

##### ② オンライン会議システム Zoom による遠隔授業に係る留意事項の事前配付

##### ③ 学習形態及び運用の在り方の検討

- ・ 講義(プレゼンテーション)
- ・ 画面共有による資料提示(文書、動画等)
- ・ 実物投影機を活用した画面共有
- ・ ホワイトボード機能を活用した協議
- ・ ブレイクアウトルーム機能を活用したグループ活動

##### ④ 環境・体制等の整備

- ・ 送受信設備の整備
- ・ システム使用に関する習熟
- ・ ティーチング・アシスタント(TA)の導入

**遠隔授業学修指示書**  
学校の危機管理研究Ⅰ 第3回「学校の危機管理と保護者・地域住民との協働Ⅰ」(8月4日)  
(担当:野村一夫・金原知延・津山勝廣)

**【学修を進めるにあたって】**  
事前学習として、勤務校における地域と学校をつなぐための組織体制や運営方法、取組の概要などをリサーチしておきましょう。

**<リサーチ内容>**  
1. あなたの学校では、学校運営協議会が設置されていますか。  
2. あなたの学校では、校務分掌として「地域連携担当教員」の位置付けがありますか。  
3. あなたの学校の学校運営協議会では、どのような事項について協議されていますか。  
4. あなたの学校の学校運営協議会では、どのような事項について協議されていますか。  
5. 学校運営協議会で協議し、合意された内容を教職員や地域住民は知っていますか。  
6. あなたの学校の校区には、地域学校協働本部が設定されていますか。  
7. あなたの学校の校区には、地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)が配置されていますか。  
8. 学校と地域が連携・協働して、どのような活動が行われていますか。  
9. あなたの学校の校区内の地域には、地域住民が自主的に活動する場がありますか。  
10. あなたの学校の管理職(校長、副校長、教頭)は、学校と地域との連携・協働の在り方をどのように考えていますか。

**<学修のねらい>**  
学校運営協議会と地域学校協働本部の制度を概観し、教職員と保護者・地域住民が連携・協働するための条件を探ることにより、「地域とともある学校づくり」の意義と課題について考える。

1. 「地域とともある学校づくり」に係る体制づくりの法的根拠と社会的意義を理解する。  
2. 各校における現状を分析し、その背景(外的・内的)を探る。  
3. 地域と学校の連携・協働に係る体制づくりに関する力量を身につける。

**<学習内容と形態>**  
1. 地教育法及び社会教育法の一部改正の法意について、専任及び専修科等から考える。(講義+全体協議)  
2. 学校の組織体制と運営方法について協議し、現状の要因を整理する。(G協議)  
3. 事例検討「地域からの要望に学校はどう対応するの?」について協議する。(演習)

**【学修手順】**

学修内容(時間)	学修に関する指示及び留意事項(※:主な活動、□:事前学習事項)
1. 学校運営協議会と地域学校協働本部の現状把握(15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織体制(コミュニティ・スクール)の整備状況を確認します。</li> <li>各自の認識と意義を内観します。</li> <li>□学校における組織体制や運営方法、教職員の意識などをリサーチしておきましょう。</li> <li>□地域と学校の連携による活動状況や地域住民の意識などをリサーチしておきましょう。</li> </ul> <p style="text-align: right;">&lt;マインドセット&gt;案アンケート機能</p>
2. 学校運営協議会と地域学校協働本部の一体的取組の意義についての協議(15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と学校の連携・協働の意義や必要性、留意点などについて、協議しホワイトボードに整理し、全体報告をします。</li> <li>□現状を踏まえ、学校運営協議会制度と地域学校協働活動の一体的推進の目的について、自らの考えを整理しておきましょう。</li> </ul> <p style="text-align: right;">&lt;対話&gt;案ブレイクアウトルーム機能+ホワイトボード機能 &lt;発表・共有&gt;案ウェブ会議機能+画面共有機能</p>
3. 組織体制とその法的根拠の概観(15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「社会に開かれた教育課程」の実現と組織体制の整備に係る法的根拠や国の施策等について解説します。</li> <li>□地域とともある学校づくりに関する関係法令や答申、留意などを整理しておきましょう。</li> </ul> <p style="text-align: right;">&lt;協議&gt;案ウェブ会議機能+画面共有機能</p>
4. 地域とともある学校づくりと具体的対応(15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例問題(配付資料)から、地域の要望に学校はどのように対応するのか協議し、地域と学校の連携・協働の意義と留意点について検討します。</li> <li>□地域から学校へ、どのような要望があるかリサーチしておきましょう。</li> </ul> <p style="text-align: right;">&lt;対話&gt;案ブレイクアウトルーム機能</p>
5. 地域と学校の連携・協働に係る組織体制や運営方法、キーパーソンとしての地域連携担当教員と地域学校協働推進員の果たす役割などを整理します。(15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と学校の連携・協働に係る組織体制や運営方法、キーパーソンとしての地域連携担当教員と地域学校協働推進員の果たす役割などを整理します。</li> </ul> <p style="text-align: right;">&lt;協議&gt;案ウェブ会議機能 &lt;共有&gt;案チャット機能 &lt;リフレクション&gt;案アンケート機能</p>

**【参考資料】**  
□文部科学省制作パンフレット「コミュニティ・スクール」「コミュニティ・スクールって何?」  
「地域みんなで子供たちの未来を考えるワークショップのすすめ」

【遠隔授業指示書(例)】

## 思考力、判断力、表現力等の育成モデル校事業

### 1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、各教科等の指導において、主体的・協働的な言語活動等を充実することにより、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、児童生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむため、モデル校を指定して研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、思考力・判断力・表現力等の育成に向けて言語活動等を充実させた授業づくりを先導的に推進し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

### 2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校に指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

### 3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
善通寺市立西中学校	令和2年8月6日(木) 10:00~11:00	准教授 岡田 涼	職員研修における指導・助言
善通寺市立西中学校	令和2年10月1日(木) 14:30~16:30	教授 笠 潤平	教科学習の研究授業後、討議会における指導・助言
善通寺市立西中学校	令和2年11月4日(水) 13:30~15:30	准教授 米村耕平	教科学習の研究授業後、討議会における指導・助言
善通寺市立西中学校	令和3年1月27日(水) 15:00~16:00	准教授 岡田 涼	校内授業参観の後、職員研修における指導・助言

#### ※ モデル校の研究内容

##### ■ 善通寺市立西中学校

研究主題 「逆向き設計」論によるパフォーマンス課題の開発と評価指標の作成

## アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業

### 1 趣旨について

子供たちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、「どのように学ぶか」という学びの質を重視し、子供たちの「主体的・対話的で深い学び（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）」（以下、アクティブ・ラーニング）を実現する必要がある。を実現する必要がある。

本事業は市町との連携・協力の下、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を先導的に研究するために、モデル校を指定するものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて、言語活動の充実、情報活用能力の育成、学習評価の充実等の研究を行い、その成果を普及することで、県下の児童生徒の資質・能力の向上に資するものとする。

### 2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、香川の教育づくり発表会・香川県教育センター発表会を通して研究成果の普及・啓発に努める。また、授業の積極的な公開に努める。
- (3) モデル校は、香川県教育センターの調査研究事業に協力する。
- (4) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などを行い、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (5) 香川県教育委員会は、必要に応じて香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、モデル校に指導主事を継続的に派遣して適切に支援したりモデル校の取組を評価したりする。

### 3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
高松市立古高松中学校	令和2年10月22日(木) 14:40 ~ 16:30	准教授 岡田 涼	研究授業後の討議会における指導・助言
高松市立古高松中学校	令和2年11月18日(水) 15:00 ~ 16:00	准教授 岡田 涼	学習指導の充実に向けた講話

#### ※ モデル校の研究内容

##### ■ 高松市立古高松中学校

(研究主題)

言語を介して能動的に関わる力の育成  
～「話し合う活動」・「振り返り活動」の工夫～

## 幼児教育支援員派遣事業

幼児教育に関する知識・経験を有する者を幼稚園に派遣することによって、「香川県就学前教育振興指針」（令和2年2月）の趣旨の普及及び地域の実情に応じた具体的な取組を進め、もって香川県内の幼児教育の推進を図ることを目的とする。

幼稚園（幼稚園型認定こども園を含む。）及び幼保連携型認定こども園（以下、「幼稚園等」という。）と幼児教育支援員が協力して、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 幼稚園等における遊びの充実
- 園内研修の活性化
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について

### 1 幼児教育支援員

「幼児教育支援員」（以下「支援員」という。）とは、次の者をいう。

- (1) 幼児教育に関し識見を有する者であって、香川県教育委員会事務局（以下「県教育委員会」という。）義務教育課長が指名する者
- (2) 県教育委員会指導主事

No.	氏名	役職 分野
1	片岡 元子	香川大学教育学部教授 幼児教育
2	松本 博雄	香川大学教育学部准教授 幼児教育
3	松井 剛太	香川大学教育学部准教授 幼児教育
4	吉川 暢子	香川大学教育学部准教授 幼児教育
5	金子 之史	香川大学名誉教授 理科教育

### 2 支援員の職務

支援員の職務は、次のとおりとする。

幼稚園等の申請に基づき、幼稚園等を訪問し、公開保育の参観・研究協議会の参加等を通じて、指導・助言を行う。

### 3 派遣実績（6市町17園）

	園 名	訪問日時	研修内容	支援員
1	多度津町立豊原幼稚園	R2年6月9日（火）	教師の適切な関わり方や家庭との連携の在り方	松井剛太先生
2	善通寺市立東部幼稚園	R2年6月11日（木）	子どもの主体性と教師の意図のバランス	松本博雄先生
3	多度津町立四箇幼稚園	R2年6月12日（金）	資質向上につながる記録の取り方	金子之史先生
4	丸亀市立城坤幼稚園	R2年7月15日（水）	子どもへの言葉かけや関わり方、環境構成	金子之史先生
5	高松市立香南こども園	R2年7月16日（木）	乳幼児理解を深める園内研修の在り方	松井剛太先生
6	坂出市立林田幼稚園	R2年9月4日（金）	幼児にふさわしい指導計画の作成	吉川暢子先生
7	高松市立国分寺北部幼稚園	R2年9月14日（月）	園の環境の特色を生かした具体的な環境構成や支援の在り方	松本博雄先生
8	丸亀市立飯山こども園	R2年10月8日（木）	子どもたちが自らやってみたいと思える環境づくりや援助の在り方	金子之史先生

9	高松市立一宮幼稚園	R2年10月30日(金)	子どもの捉え方や計画性の在り方	吉川暢子先生
10	高松市立川東こども園	R2年11月2日(月)	5歳児の保育の在り方	松本博雄先生
11	東かがわ市立引田こども園	R2年11月4日(水)	子ども自ら「やってみたい!」と思えるような環境構成	吉川暢子先生
12	多度津町立多度津幼稚園	R2年11月20日(金)	幼小の滑らかな接続(学びの連続性や小学校との交流活動の進め方など)	松本博雄先生
13	善通寺市立南部幼稚園	R2年11月25日(水)	保育についての見取りと、日々実践	片岡元子先生
14	高松市立木太幼稚園	R2年12月22日(火)	就学前教育から小学校教育への学びの連続性を踏まえた連携や接続	松井剛太先生
15	丸亀市立郡家こども園	R3年1月22日(金)	子どもの主体性と保育者の関わり	片岡元子先生
16	丸亀市立城辰幼稚園	R3年1月26日(火)	少人数でも豊かに人と関わりがもてる環境構成	松井剛太先生
17	高松市立木太幼稚園	R3年2月2日(火)	環境の再構成や保育者の援助	松井剛太先生

## 豊かでたくましい心をはぐくむ教育の推進

### 道徳教育推進のポイント

- ◆ 道徳科（道徳の時間）を要として学校の教育活動全体を通じて行う指導の工夫
- ◆ 全教師の協力による道徳教育の展開
- ◆ 家庭、地域社会との効果的な連携

#### 趣旨

道徳教育は、道徳科（道徳の時間）を要として、学校の教育活動全体を通じて行われるものとされており、各学校においては、道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実とともに道徳科（道徳の時間）の指導の充実が求められている。

小学校は平成 30 年度、中学校は平成 31 年度からの道徳の教科化を踏まえ、生命を大切にする心や思いやりの心等の倫理観や規範意識、社会性等を育むため、道徳科（道徳の時間）の充実を図るとともに、学校・家庭・地域社会が一体となって取り組む道徳教育を推進する。



#### 道徳教育指導力向上研修

- 道徳の教科化を踏まえ、指導の工夫や評価の在り方について研修を深めるとともに、各学校における道徳教育の推進を図る。
  - ◆ 令和 2 年 10 月 8 日（木）、16 日（金）、県教育センターで植田和也教授より講話を頂く予定であったが、国の「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」がコロナの影響を受け、中止となったことから、本年度の研修は中止となった。

#### 道徳教育地域支援事業

- 学校や地域の実情に応じた特色ある道徳教育を推進する。
- 県教委が作成している地域読み物資料「新ふるさとの心」を児童生徒に配布することで、道徳の時間における積極的な活用を推進する。
    - ◆ 9 月に配布予定であったが、国の「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」がコロナの影響を受け、急に中止となったことから、本年度は中止となった。
  - 道徳教育研究推進校における実践研究（令和 2 年度研究推進校 三豊市立詫間中学校）
    - ◆ 第 1 回推進会議、第 2 回推進会議で植田和也教授より指導講話を頂く予定であったが、国の「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」がコロナの影響を受け、中止となったことから、本年度は推進会議は 1 回のみかつ指導講話はなしとなった。

#### 「いのちのせんせい」派遣事業

- 常に「生」や「死」に直面している助産師や介護福祉士、獣医師、手話通訳士など、命を守り、命を大切にしていける意味を語ってくださる方を「いのちのせんせい」として希望する小・中学校に派遣し、体験的、感動的な道徳教育を展開する。
  - ◆ 令和 2 年度 91 校に派遣（12 月末時点）

## キャリア教育充実事業（プロを講師とした授業）について

### ア 趣旨

県立高校における「各教科・科目」等の授業の適切な場面において、社会から優れた知識・技術・経験を持つ人材を学校教育に迎え入れ、多様な教育活動を実践することにより、学校教育の充実と活性化を図る。

### イ 内容

#### (1) 学習活動の活性化、教育内容の充実、知識・技能の深化及び総合化

- ・ 現在の先端技術や最新の研究、情報等の提供。
- ・ 学校の施設・設備では行えない実験・実習分野について、最新の施設・設備を有する企業や研究機関における実験結果や機器の使用を通じて、具体的な知識を得る。
- ・ 専門分野の話聞くことにより、学習内容の深化を図る。
- ・ 「総合的な探究（学習）の時間」において、生徒の主体的な取組を促進する。

#### (2) 社会の第一線で働く人の姿に触れることにより、将来の自己の在り方、生き方や進路を考える上での有益な糧の入手、職業意識の高揚

- ・ プロの技術を教授されることにより、職業人に対する尊敬の意識を持つとともに、産業社会の実情を知る。
- ・ 専門的な内容に触れ、自らの進路選択の上で参考にする。
- ・ 社会的な視野を深め、広げる。

### ウ 香川大学との連携について

教科学習の専門性を深める目的での授業の展開や、「総合的な探究（学習）の時間」での進路意識の醸成や、専門的な学究への関心を高めることに大きな効果をあげている。

## 高大連携（高校生対象の授業公開等に係る連携）について

### 1 概要

本事業は、平成 15 年 2 月 13 日に高校生等に大学における高度な教育・研究に触れる機会を提供し、学問に対する興味・関心や自ら学ぶ意欲を高めさせるとともに主体的な進路選択ができるようにするため、県教育委員会と香川大学との間で高校と大学との連携に関する協定を結び、県下のすべての高校生等が、香川大学の授業や高校生を対象とした公開講座を受講できるようにしたものである。

### 2 授業の公開・開講状況・受講状況

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として中止した。

### 3 受講の手続き

受講までの具体的な手続きは、大学での受講を希望する生徒が、学修を行うにふさわしいかどうかを校長が判断し、県教育委員会を通して大学へ推薦する。大学側で人数等の調整を行い、県教委に対して受講決定に関する通知を行い、県教委はその結果を各高校を通じて受講者に通知する。

### 4 授業料等

授業料については、公開授業が 1 科目あたり 2,300 円、体験授業はオープンキャンパスの一環として実施するので無料である。ただし、大学の教員が指示するテキスト等の代金、大学の施設・設備を誤って汚損した場合に備えて賠償責任保険への加入が望ましい。

### 5 成果の認定等

受講状況が良好であり十分に成果を上げたと認められる生徒に対しては、大学から修了証書が発行される。なお、体験授業については、修了証書は発行されない。

また、学校外の学修に関する単位認定制度を設定している学校においては、生徒の申請を受けて審議し、校長の判断により高等学校の単位として認定することができる。



## 学生ボランティア派遣事業

### 1 対象

将来教育関係の分野に進むことを希望する香川大学の学生

※ 前期募集は2学年以上、後期募集からは第1学年も可とする。

### 2 主な活動内容

小・中学校や教育支援センター（適応指導教室）へ派遣し、学習活動、野外活動及び体験的な活動等学校生活全般において、児童生徒とともに活動する中で、児童生徒の心の悩み等の解消や学校教育活動の活性化を図る。

#### ア 小・中学校

- ・ 学習活動の補助
- ・ 体験活動や校外学習など学校教育活動及び学校行事への補助
- ・ 学校生活への適応補助
- ・ 別室登校生等への指導補助

#### イ 教育支援センター（適応指導教室）

- ・ 日常活動の補助
- ・ 生活指導・学習指導の補助
- ・ 野外活動等体験活動の補助

#### ウ その他（さぬきっ子人権感覚育成事業等）

### 3 大学と教育委員会との連携内容

ア 募集前に本事業についてのガイダンスを行う。（大学と県教委）

イ 学生ボランティアの募集票の提示と登録名簿の作成を行う。（大学）

ウ 希望者の派遣先へ通知する。（県教委）

エ ボランティア活動中に随時学生の相談を行う。（大学と県教委）

オ 年度末に本事業に参加した学生による発表会を実施する。（大学）

カ 大学と県教委が協議会を行い、意見交換を行う。（大学と県教委）

キ ボランティア終了後、派遣校からそれぞれの学生への評価等によって感謝状を贈る。（県教委）

### 学生ボランティア派遣状況（R2.12.1現在）

	R元年度						R2年度					
	登録			派遣			登録			派遣		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2年	9	18	27	9	18	27	17	10	27	17	10	27
3年	6	16	22	6	16	22	7	13	20	6	13	19
4年	2	8	10	2	8	10	4	12	16	4	12	16
院生等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	17	42	59	17	42	59	28	35	63	27	35	62

### 派遣先

	R元年度			R2年度		
	要請があった学校数	要請があり派遣できた学校等	要請があったが派遣できなかった学校等	要請があった学校等の数	要請があり派遣できた学校等	要請があったが派遣できなかった学校等
小学校	29	26	3	37	30	7
中学校	3	1	2	1	0	1
教支援セ	3	1	2	0	0	0
その他	3	3	0	0	0	0
計	38	31	7	38	30	8

派遣要請に対する派遣率 81.6%

派遣要請に対する派遣率 78.9%

## 第 19 回未来からの留学生サテライト

実行委員長 松本博雄

昨年度まで 18 回にわたり、香川県教育委員会のご後援をいただきながら実施してまいりました「未来からの留学生」は、本年度、コロナ禍の中で開催形態の変更を余儀なくされました。「教育学部フェスティバル」と銘打つ本事業は、大学を地域に公開することにより、本学部と地域を直接的に繋ぐ機会であると同時に、活動の企画や運営を通じ、特に教育実習を前にした学生自身が子どもとの接し方を実際に学ぶ貴重な機会にもなっていました。今回、あらためてこれらの主旨を振り返るとともに、これもコロナ禍の影響で難しくなっている学生同士の相互交流と学び合いの機会とすることをねらって、限られたかたちではありますが、「未来からの留学生サテライト」という名称で、教育学部ウェブページ・香川大学公式 youtube チャンネルからのオンラインによる動画配信と、学校園訪問を主とする講座を開講することにしました。

幼児教育コースは教育学部附属幼稚園を訪問し、人形劇を子どもたちに上演しました。公開されている動画には、人形劇を子どもたちが楽しむ様子と共に、幼稚園での子どもたちの姿や保育における環境構成に関する学生と大学教員、附属幼稚園教職員の対談が含まれています。理科学研究室は、学生による小学生向けの実験動画を複数配信するとともに、日本化学会中国四国支部主催との共催で行われた化学実験では、11月1日にテレビ会議システム（Zoom）を活用し、子どもたちと交流する機会を設けました。また、音楽・特別支援教育・教育学研究室は、高松市立鶴尾小学校への訪問活動「香大生と遊ぼう」の一環として、コンサートやバルーンアート、演劇等の活動を実践しました。動画では、教育学研究室によって上演された演劇の様子が公開されています。全ての動画は、現在も『未来からの留学生サテライト』<https://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~mirai/>より視聴することができます。（1月4日現在、動画合計で1382件のアクセスがありました。）

本年度は全てが手探りの中で始まりましたが、無事活動が進められましたのは、ひとえに県内の教育関係者をはじめとする皆様方のご協力の賜物と存じます。難しい状況は来年度も続くかもしれません。本年度の活動を振り返り、学生と地域にとって最善の活動のあり方を今後も検討してまいりたいと考えております。本年度の活動の実施に尽力頂きましたことに深く感謝いたしますと共に、来年度以降の活動につきましてもどうかご支援頂けますようお願い致します。



## 令和2年度特別支援教育コーディネーター協議会

## 1 目的

幼稚園、認定こども園、小・中学校並びに高等学校において、発達障害を含む障害のある児童生徒の指導・支援を充実させるために、また、特別支援学校のセンター的機能を充実させるために、そのリーダー的役割を担う特別支援教育コーディネーター等を対象に、特別支援教育に関する現代的課題を共有することを目的とする。

## 2 対象及び受講者数

月 日	地域	対 象	受講者数
9月9日	仲善	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	48名
9月16日	中讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	79名
10月2日	西讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	61名
10月21日	東讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	31名
11月13日	小豆	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	21名
11月17日	高松	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	121名

合計 361名

## 3 研修テーマ及び講師（香川大学教育学部）

実施日	研修テーマ	講 師
9月9日	発達性読み書き障害の理解と指導・支援	准教授 中島 栄美子
9月16日	発達障害による困難さと効果的な医療的アプローチについて	教授 西田 智子
10月21日	知能検査等のアセスメントを踏まえた児童生徒への支援について	教授 惠羅 修吉
11月13日	発達障害やそれに伴う二次障害等による困難さについての適切な理解と対応について	教授 武藏 博文
11月17日	学校支援体制と外部機関との連携	教授 宮前 義和

## 香川 CST 事業

独立行政法人科学技術振興機構（JST）の理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー）養成拠点構築事業において、香川大学と香川県教育委員会が共同して提案した企画が平成 23 年度に採択された。支援期間は平成 26 年度までであった。平成 27 年度以降は「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」のもとに設置された専門委員会「香川 CST 事業推進委員会」が業務を引き継ぎ、CST 養成プログラム（教材 CST、現職教員向け教材 CST）を実施し、CST 活動を推進することになった。令和 2 年度の主な取組みは以下のとおりである。

### ■ 受講者

#### (1) 学生

教材 CST = 13 名（継続 13 名、新規 0 名）

令和 2 年度修了予定 0 名

#### (2) 現職教員

教材 CST = 実施なし

### ■ 教材 CST 研修会

実験・観察教材開発研修会

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、今年度は未実施

## 英語ラボ、道徳ラボの取組

植田 和也

令和2年度 独)教職員支援機構連携教職大学院を対象とする地域センター開発支援事業

四国地域教職アライアンス香川大学センター主催の本事業を本学教職大学院と香川県教育センターが連携のもと、平成28年度から継続的に実施してきた道徳ラボと昨年度から実施の英語ラボを実施してきた。道徳ラボは、四国アライアンス広域連携型プログラムの「SP3 社会の変化と子供の心 道徳教育の指導」に、英語ラボは「SP4 小学校英語」に位置付けながらオンライン発信も活用しながら実施してきた。

本プログラムの道徳・英語ラボ研修会を通じて、主に四国内の教育関係者を対象に具体的な各学校や教員の取組について、不安や悩みの軽減を図るとともに、各教員の資質向上につながる研修内容を香川県教育センターとの連携・協働で提供してきた。

今後も各教員・大学・附属学校・行政等、互いのネットワークづくりの構築にも寄与したい。

## ① 研修の実施内容（実施時期、対象人数、会場、日程、内容等）

研修名 日時	講師、提案者等 (敬称略)	人数	会場	内容・日程	備考
道徳ラボ研修会 I 令和2年10月3日	本学教職大学院教員、センター指導主事、七條正典、坂井親治、他	78人	香川大学	若手教員の授業力向上	オンライン併用
英語ラボ研修会 I 令和3年2月6日	斎藤嘉則、中住幸治、センター指導主事		香川大学	小学校英語指導と評価の実際	オンライン併用
道徳ラボ研修会 II 令和3年2月27日	本学教職大学院教員、センター指導主事、県内実践者		香川大学	道徳科における ICT 活用、	オンライン併用

今年度学校現場等での活用を意図して、昨年度に作成した教材・・・校内研修、個人研修等で活用

「令和元年度教員の資質向上のための研修プログラム開発・実施支援事業」  
独立行政法人 教職員支援機構委嘱事業

教科化対応ラボによる教員の資質向上  
～英語ラボ・道徳ラボ研修会を通して指導と評価の一体化～

道徳ラボー校内研修の充実ー  
30分で挑戦！演習用シート教材集



香川大学教職大学院 香川県教育センター  
令和2年3月

「令和元年度教員の資質向上のための研修プログラム開発・実施支援事業」  
独立行政法人 教職員支援機構委嘱事業

教科化対応ラボによる教員の資質向上  
～英語ラボ・道徳ラボ研修会を通して指導と評価の一体化～

小学校英語評価資料集  
「指導と評価の一体化に向けて」



香川大学教職大学院 香川県教育センター  
令和2年3月

# 資料 16-1

令和2年度 坂出高校教育創造コースに対する香川大学教育学部からの支援について  
月日の欄の※印は別添資料あり

## 1. 大学教員による指導等

### (1) 出前講座

回	月・日	学年	担当講師	講義のタイトル
1	6月5日	2年生	片岡元子 先生	幼児期の教育～遊んで大きく育つ～
2	6月19日	2年生	小方朋子 先生	特別支援教育について
3	9月18日	1年生	植田和也 先生	子どもとかかわり 自分を磨く
4	9月25日	3年生	山神真一 先生	コミュニケーション能力を向上させるためには
5	10月2日	1年生	小方直幸 先生	友達関係の社会学
6	10月23日	3年生	上野耕平 先生	体育に活かすスポーツ科学
7	10月30日	1年生	惠羅修吉 先生	顔をみる、顔からみる
8	11月6日	3年生	古橋紀宏 先生	近体詩の規則
9	2月12日	2年生	高木由美子先生	中学校教育について

### (2) グループ研究指導

回	月・日	学年	担当講師	内容
1	7月29日※	3年生	毛利 猛 先生、小方朋子 先生	研究発表会
2	1月29日	1年生	毛利 猛 先生、小方朋子 先生	1年生研究発表会
		2年生	毛利 猛 先生、小方朋子 先生	研究中間発表会
3	3月12日	1・2年生	毛利 猛 先生、小方朋子 先生	1年間のまとめ発表

この他、春季休業・臨時休業中に、生徒は各研究室の先生方から指導を受けている。

### (3) 香川大学訪問

月・日	学年	担当講師	内容
2月5日	1年生	毛利猛先生、小方朋子先生	施設見学、大学説明、講義の聴講

## 2. 附属学校における活動

学年	訪問先	回	月・日	内容
1年生	附属坂出小学校	1	8月21日	オリエンテーション
		2	9月11日※	ロング昼休みでの支援活動
		3	10月16日	授業見学、給食、遊び、清掃指導等
		4	11月13日	授業補助、給食、遊び、清掃指導等
		5	2月12日	授業補助、給食、遊び、清掃指導等
2年生	附属坂出中学校	1	9月11日※	授業見学、総合学習CANの支援活動
		2	10月30日	総合学習CAN発表会の支援活動
	附属坂出幼稚園	1	6月12日	オリエンテーション
		2	10月2日※	支援活動①
		3	11月6日	支援活動②
附属特別支援学校	1	11月20日	訪問にかえて副校長先生の出前講座	
3年生	附属坂出小学校	1	9月29日	教育実習生の研究授業の見学

# 教育問題に関する「グループ研究発表会」 を行いました（3年）

7月29日(水)教育創造コースの3年生が、教育創造コースの活動の集大成となるグループ研究発表会を行いました。生徒達は昨年11月下旬から4,5人で班を作り、教育問題に関するテーマを設定し、グループで研究を行ってきました。今年の1月には中間発表会を行い、その後3~5月の休校中に香川大学の先生方からメール等でアドバイスをいただきながら研究を進めてきました。



プレゼンテーションソフトを使って、各班4分間の発表を行いました。発表には、各班でさまざまな工夫が見られました。左下の写真は、5班が電子の動きをタブレットを利用して提示している様子です。

班	研究テーマ一覧（3年生）
1	SNSの浸透による教育上の問題
2	Efficient Style Of Study
3	ジェンダーと日本の教育について~LGBTに着目して~
4	学校給食の役割と教師の課題
5	ICTを利用した新しい教育の在り方
6	教師の労働時間~フィンランドと比べて~
7	学区制度について
8	世界のICT教育について~ICTを活用した授業形態~
9	諸外国の大学入試と日本の比較
10	効率的な学習方法



最後に香川大学教育学部の毛利先生と香川県教育委員会の笠井先生より、講評をいただきました。

今春本校を卒業し、香川大学教育学部に入学した1期生達も、後輩の応援に駆けつけてくれました。



ご指導いただいた香川大学教育学部の先生方、本当にありがとうございました。

今後とも、教育創造コースの生徒達の活動に注目して下さい！！

## 香川大学教育学部附属坂出小学校 支援活動①

## 「ロング昼休み」におじゃましました

9月11日、教育創造コースの1年生が、本校に隣接する香川大学教育学部附属坂出小学校に初めておじゃまし、「ロング昼休み」の時間を一緒に過ごしました。



うちわづくり



指人形づくり



輪投げ



手さげづくり



消える絵づくり



空気砲づくり



紙コップけん玉づくり



折紙・切紙



たくさんの小学生の皆さん、一緒に活動できてうれしかったです！！  
 ありがとうございました。高校生は、初めての小学生との活動だったので、とても緊張してしまいました。  
 また、小学生の皆さんと会えることを楽しみにしています。

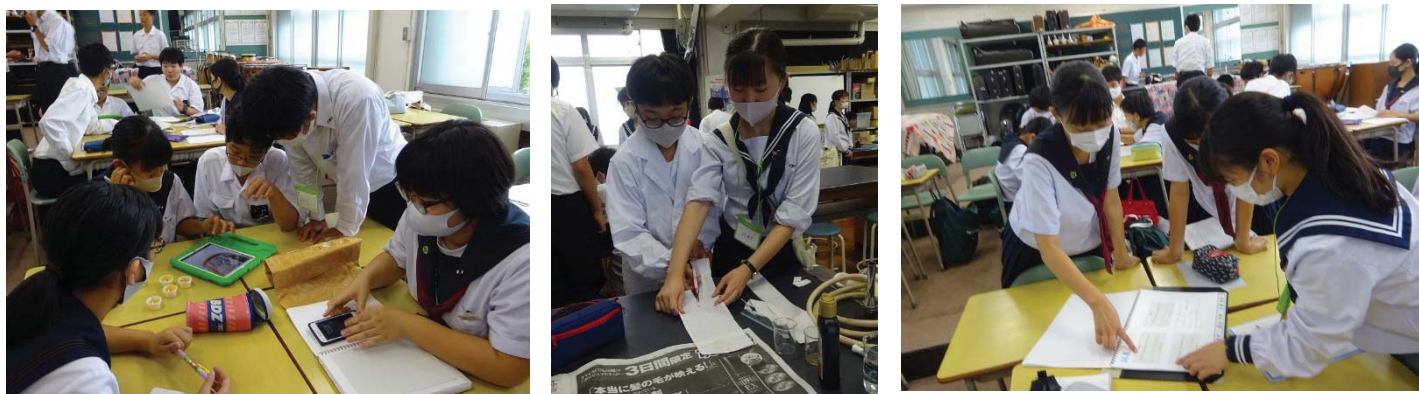


## 香川大学教育学部附属坂出中学校で 支援活動① を実施しました

9月11日、教育創造コースの2年生が、本校に隣接する香川大学教育学部附属坂出中学校で、教育実習生の授業を見学し、総合学習CANの活動に参加しました。



2校時、初めての授業見学を行いました。教育実習中の大学生を見習って、メモを取りながら授業を受けました。生徒ではなく、先生という立場で授業を見せていただき、未来の自分の姿を想像しました。授業をしてくれた教育実習生は、坂出高校の先輩でしたよ。



3校時、附属中学校では、学年の枠を超えたチームごとに探究テーマを決めて「CAN」に取り組んでいます。一緒に実験したり、今までの活動について説明を聞いたりしました。気付くことも多く、とても勉強になりました。

本日は、ありがとうございました。また、次回の活動を楽しみにしています。

## 香川大学教育学部附属坂出幼稚園で 支援活動①（2年）を実施しました

10月2日、香川大学教育学部附属坂出幼稚園において、教育創造コースの2年生がガイダンスの後、園庭やリズム室、各保育室で園児と一緒に活動しました。



とても楽しい時間を過ごすことができました。園児の皆さん、ありがとうございます！！

最後に本校に戻って、支援活動で困ったことや印象に残ったことをクラス全員で共有しました。この振り返りを次回の支援活動に活かします。11月の支援活動が今からとても楽しみです！！



## 覺書・要項

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との 連携協力に関する覚書

### (目的)

第1条 香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）とは、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る。

### (実施機関)

第2条 前条に規定する連携協力は、甲（その附属機関を含む。以下同じ。）と乙（その所管する教育機関を含む。以下同じ。）の間で実施する。

### (研究及び活動の内容)

第3条 第1条の規定に基づき連携協力して実施する内容は、次のとおりとする。

- (1) 教員養成に関する事項
- (2) 教員研修に関する事項
- (3) 学校教育上の諸課題への対応に関する事項
- (4) その他両者が必要と認める事項

### (連携の方法)

第4条 甲と乙は、連携協りに当たってそれぞれ職員の派遣及び受け入れについて協力するとともに、自らの有する施設等の利用についても、業務に支障のない範囲で双方便宜を供するものとする。

### (連携協議会)

第5条 甲と乙は、相互に連携協力を推進するため、「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」（以下「連携協議会」という。）を置く。

### (経費)

第6条 連携協力の推進に関わる経費については、各機関が負担する。ただし、職員の派遣経費は、要請した側が負担する。

### (補則)

第7条 この覚書に定めるもののほか、連携協力の細目その他については、甲と乙が協議して別に定めるものとする。

2 この覚書に定める事項に疑義が生じた場合は、甲と乙は協議してその解決を図るものとする。

この覚書は、2通作成し、甲と乙がそれぞれ1通を所持するものとする。

平成14年 5月30日

香川大学教育学部長  
妻 鳥 敏 彦

香川県教育委員会教育長  
惣 脇 宏

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項

### 1. 設置

香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）との連携協力に関する覚書第5条の規定に基づき、香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

### 2. 事業

協議会は、連携協力に関する事項等について協議するため、年1回程度開催する。

### 3. 組織

協議会は、別表に掲げる職にある者をもって組織する。

### 4. 役員

協議会には、会長、副会長を置き、会長には香川大学教育学部長をもって充てるとともに、副会長には香川県教育委員会教育長をもって充てるものとする。

会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、副会長がその職務を代理するものとする。

### 5. 専門委員会

協議会に、連携協力に係る具体的な事項等について検討するため、専門委員会を設置することができる。

専門委員会には、委員長及び副委員長を置くものとする。

なお、専門委員会は、甲又は乙の申し出により適宜開催するものとする。

### 6. 幹事会

協議会に、協議会及び専門委員会の事務を処理するため、幹事会を置くものとする。

幹事は、香川大学教育学部及び香川県教育委員会の関係職員をもって充てるものとする。

### 7. 補則

この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会の承認を経て会長が定める。

#### 附 則

この要項は、平成14年5月30日から施行する。

#### 附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

#### 附 則

この要項は、平成20年2月13日から施行する。

#### 附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和2年4月1日から施行する。

別 表

香川大学教育学部

教育学部長

副学部長

教育研究評議員

実地教育委員会委員長

学生支援専門委員会委員長

学務委員会委員長

入試専門委員会委員長

附属学校代表

附属教職支援開発センター長

幸町地区統合事務センター長

幸町地区統合事務センター事務課長（幸町北キャンパス担当）

香川県教育委員会

教育長

副教育長

教育次長

総務課長

義務教育課長

高校教育課長

特別支援教育課長

香川県教育センター所長